2012年12月15日

資料１

九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン検討委員会
第５回委員会資料

九州大学・福 岡 市

九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン（案）

九州大学箱崎キャンパス
跡地利用将来ビジョン検討委員会

目　　次

１．将来ビジョン策定の目的 …… 1
（１）目的 3
（２）統合移転事業の概要 4
（３）全体構成フロー 6

２．優位性と課題 …… 9
（１）位置 10
（２）福岡市の優位性・課題 12
（３）箱崎地区の優位性・課題 14
（４）上位計画等から見た役割・位置づけ 16
（５）上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割 20

３．まちづくりの方針 …… 21

４．導入機能の考え方 …… 25

５．土地利用の考え方 …… 33

６．都市基盤整備の考え方 …… 37

７．空間整備の考え方 …… 41

８．将来構想 …… 45

９．跡地利用（処分）の考え方と今後の検討課題 …… 49

参考資料目次（別冊）

構　成	
九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会	目的、検討体制、検討フロー等
	検討委員会設置要綱
	検討委員会名簿
九州大学統合移転事業の概要	
地区の変遷	地区の変遷
位置及び地勢	位置及び地勢
	他地区との敷地規模の比較
上位計画・関連計画	上位計画・関連計画
	周辺プロジェクトの状況
福岡市の概況	国際的に見た福岡市の位置づけ
	福岡市の将来人口の推移
	福岡市の主要データ
	福岡市の財政構造と今後の見通し
地区の概況	人口
	事業所の動向
	土地利用
	公共公益施設
	交通
	道路
	公園
	防災
	航空機騒音
	土地の価格変動
	地域のまちづくり活動の取り組み
	まとめ
箱崎キャンパスの現況	箱崎キャンパスの現況
社会情勢	国の政策等
まちづくりの方針と導入機能の検討	導入機能の検討
	まちづくりの方針（案）への意見募集について
	民間アンケート調査結果について
これまでの跡地利用検討	
大規模跡地の活用事例	大規模な跡地利用転換に伴うまちづくりの流れ
	大規模跡地の活用事例
参考１　九州大学移転跡地の利用に関する４校区提案	
参考２「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」まちづくりの方針（案）について＜意見募集＞	
参考３　九州大学箱崎キャンパス跡地利用に関するアンケート調査票	

１．将来ビジョン策定の目的

福岡城下町・博多・近隣古地図 （文化9年（1812）写）

九州大学記録資料館九州文化史資料部門（九州文化史研究所）所蔵「三奈木黒田家文書」423号

（江戸時代後半の19世紀初めにおける福岡・博多の様子を描いたもの）

（１）目的

この「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」は九州大学統合移転事業に伴う箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるため、その基本的な枠組みを示すことを目的としている。

箱崎の地は、近世、唐津街道の宿場町として、古くは、「拾遺和歌集」に「いく世にか語りつたへむ箱崎の　松の千とせの一つならぬば」（源　重之）と詠まれたように、筥崎宮を中心に千年の歴史を持ち栄えた地区である。

九州大学は、1911年（明治44年）、箱崎地区に新設された工科大学と従来の京都帝国大学福岡医科大学（明治36年、現九大病院地区設置）が統合して創立された。

福岡市は、1889年、城下町福岡と町人のまち博多部を市域として、人口約5万人で誕生した。その後、九州大学創立にあわせて、九州大学と福岡城下の間に路面電車（現、明治通り等）が開通し、九州帝国大学、博多部、福岡城下を繋ぎ近代都市としての骨格を形成してきた歴史を持ち、その骨格は、今日まで続いている。また、路面電車が走る通り沿いには1920年代に、福岡女学院（現、福岡女学院大学）、西南学院中学（現、西南学院大学）などが相次いで開校し、九州帝国大学創立は、大学のまち福岡市の出発点となった。

現在、九州大学は更なる飛躍を目指して、世界的な研究・教育拠点を実現するため福岡市西部に伊都キャンパスを開校し、2019年（平成31年）までに全学的移転の完了を目指しており、福岡市にとって近代都市としての出発点の一つである箱崎キャンパスが100年ぶりにその土地利用を転換することとなった。

この「九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン」は、このまちの発展のために貢献された先人達や未来の若者達に胸を張って報告できるよう、九州大学統合移転事業に伴う箱崎キャンパス跡地の計画的なまちづくりと円滑な跡地処分を進めるとともに、箱崎地区の一層の発展とよりよいまちづくりを成し遂げるために、その基本的な枠組みを示すことを目的としている。

旧九州帝国大学工科大学本館を望む（明治44年頃）

博多往古図　（箱崎周辺の一部を抜粋）
福岡県立図書館所蔵「大田資料」552号
（鎌倉期から室町期の博多をさまざまな文献から推定して描かれたもので、明和2年（1765）以降の成立と推定される。）

（２）統合移転事業の概要

●箱崎キャンパスは、平成17～19年に工学系地区が移転完了。
平成27年以降に理学系地区、文系地区、農学系地区が順次移転予定。

■統合移転事業の趣旨・目的

●時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける
開かれた大学の構築
●それに相応しい研究・教育拠点の創造
＜背景＞
・専攻教育と全学共通教育の分離
・施設の老朽化、狭隘化
・箱崎地区における航空機騒音

■統合移転事業の全体像

第Ⅰステージ
（平成17～19年度）

総数：約 5,200人
(学生 4,200人、教職員 1,000人)

［移転人数：約5,200人］

工学系
理系図書館Ⅰ

箱崎より移転完了
（～H 18 年度）
第Ⅰステージ終了

第Ⅱステージ
（平成20～23年度）

総数：約 10, 800人
(学生 9,500人、教職員 1,300人)

［移転人数：約5,600人］

基幹教育院
比較社会文化研究院、言語文化研究院
数理学研究院、理学部数学科
ﾏｽ･ﾌｫｱ･ｲﾝﾀﾞｽﾄﾘ研究所
理系図書館Ⅱ

六本松より移転完了
（～H21年10月）
第Ⅱステージ終了

第Ⅲステージ
平成24～31年度

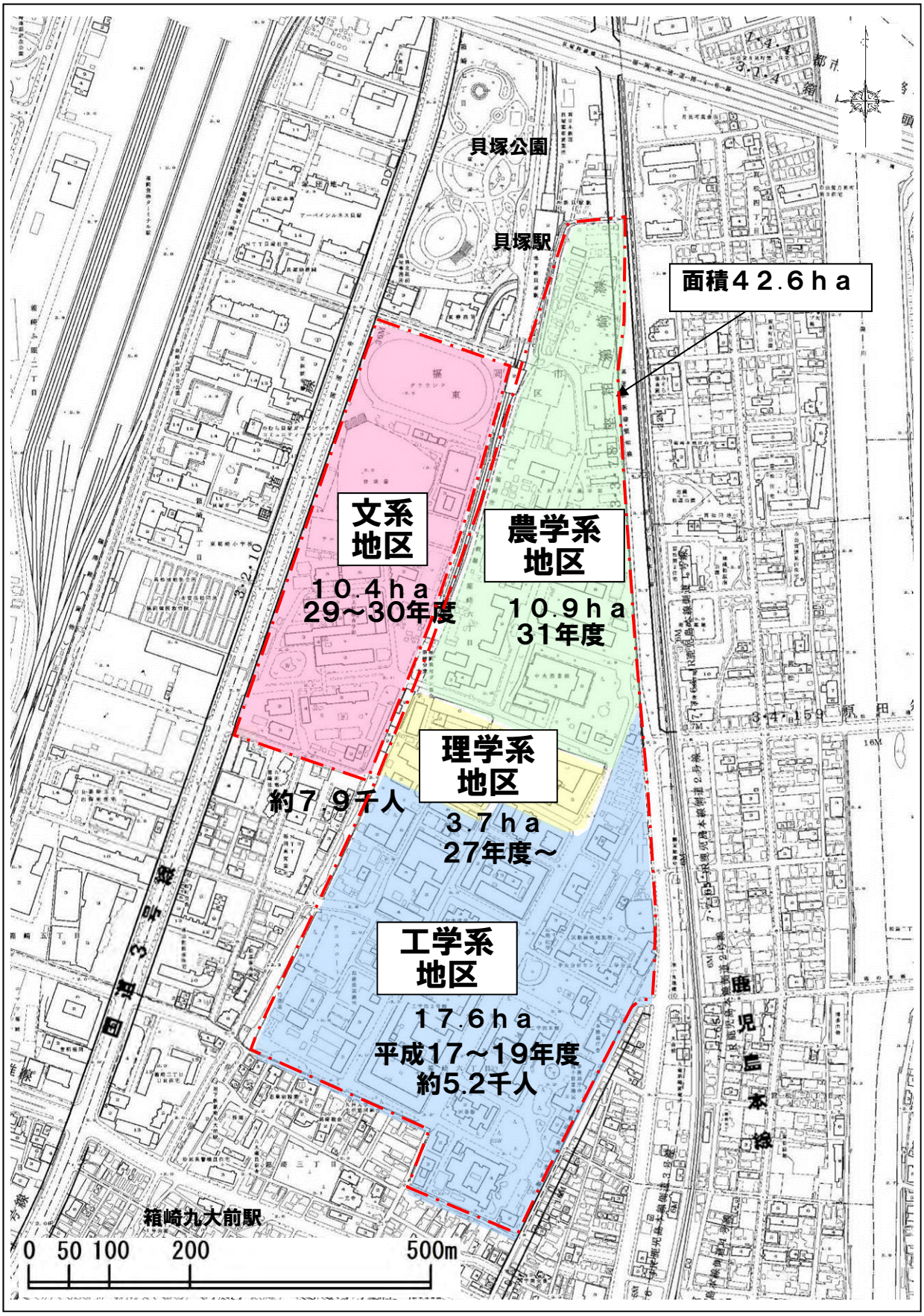
総数：約 18,700人
(学生 15,500人、職員 3,200人)

［移転人数：約7,900人］

ｶｰﾎﾞﾝﾆｭｰﾄﾗﾙ･ｴﾈﾙｷﾞｰ国際研究所
次世代燃料電池産学連携研究ｾﾝﾀｰ
椎木講堂（H25）
基幹教育院（H25）
理学系（H27）
情報基盤研究開発ｾﾝﾀｰ（H28）
中央図書館（H29）
文系　（H29･H30）
農学系･その他（H31）

※（ ）は移転予定年度を示す。

■箱崎キャンパス移転スケジュール



（３）全体構成フロー

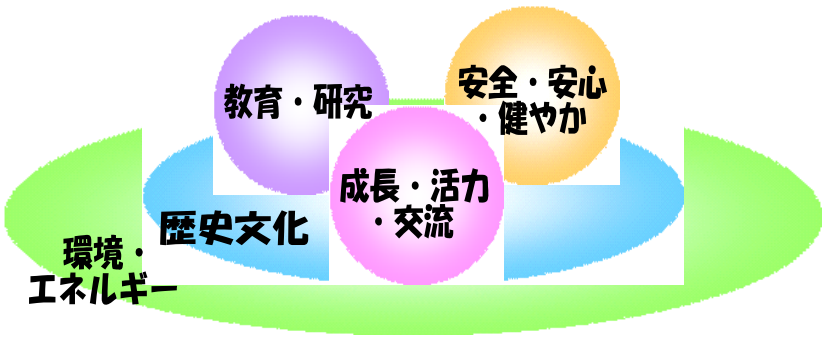
１．将来ビジョン策定の目的

２．優位性と課題

(1)位置	(2)福岡市の優位性・課題	(3)箱崎地区の優位性・課題	(4)上位計画等から見た役割・位置づけ	(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割

３．まちづくりの方針

方針1	福岡市の持続的な成長に資する **新たな活力・交流を生み出す**
方針2	九州大学が存在した地として、 **充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる**
方針3	高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、 **安全・安心・快適で健やかに暮らす**
方針4	千年のまち、大学百年の **歴史文化資源を大切にする**
方針5	次世代の環境技術と豊かな緑を生かして **環境と共生し、持続可能なまちをつくる**



4．導入機能の考え方

1．新たな活力・交流を生み出す
（1）新たな産業・雇用の場の創出
（2）立地特性を生かした広域連携拠点づくり
（3）文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出

2．充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てる
（1）新たな教育・研究機関の導入
（2）これまでの外国人留学生研究者等の受け入れ環境の活用

3．安全・安心・快適で健やかに暮らす
（1）災害に対応できる防災活動の場の創出
（2）九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実
（3）交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

4．歴史文化資源を大切にする
（1）周辺の歴史文化資源と連携するなどまちの生い立ちを継承
（2）九州大学の歴史文化資源の活用

5．環境と共生し、持続可能なまちをつくる
（1）低炭素なまちの創造
（2）水や資源を生かすまちの創造
（3）箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

5．土地利用の考え方

1．「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン

2．九州大学の「教育・研究」環境を継承し、活かすゾーン

3．「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン

4．箱崎のまちが持つ「歴史文化」資源を活かす

5．「環境」と共生し、再生「エネルギー」を積極的に活用する

6．都市基盤の考え方

1．まち全体の交通利便性を高める
（1）道路・歩行者空間整備
（2）鉄道駅周辺空間づくり
（3）バス利便性向上への取り組み

2．既存環境・魅力資源を活かす
（1）既存環境の活用
（2）周辺施設等を結ぶルートづくり

3．生活の豊かさや安全性を向上させる
（1）公園整備等
（2）供給処理施設整備等

7．空間整備の考え方

1．まち全体の一体感を創出する
（1）街並み景観の誘導
（2）一体的な街角空間の形成
（3）敷地内等における歩行者空間の確保
（4）オープンスペースの確保
（5）敷地内における緑化推進
（6）一体的機能の誘導

2．「大学100年の歴史と緑」を活かす
（1）既存樹木の活用
（2）歴史文化資源の活用
（3）九州大学の面影・記憶の継承

3．「100年後の未来に誇れるまち」をめざす
（1）まちづくりルールの策定
（2）持続的なまちづくり運営
（3）オープンスペースの有効活用

8．将来構想

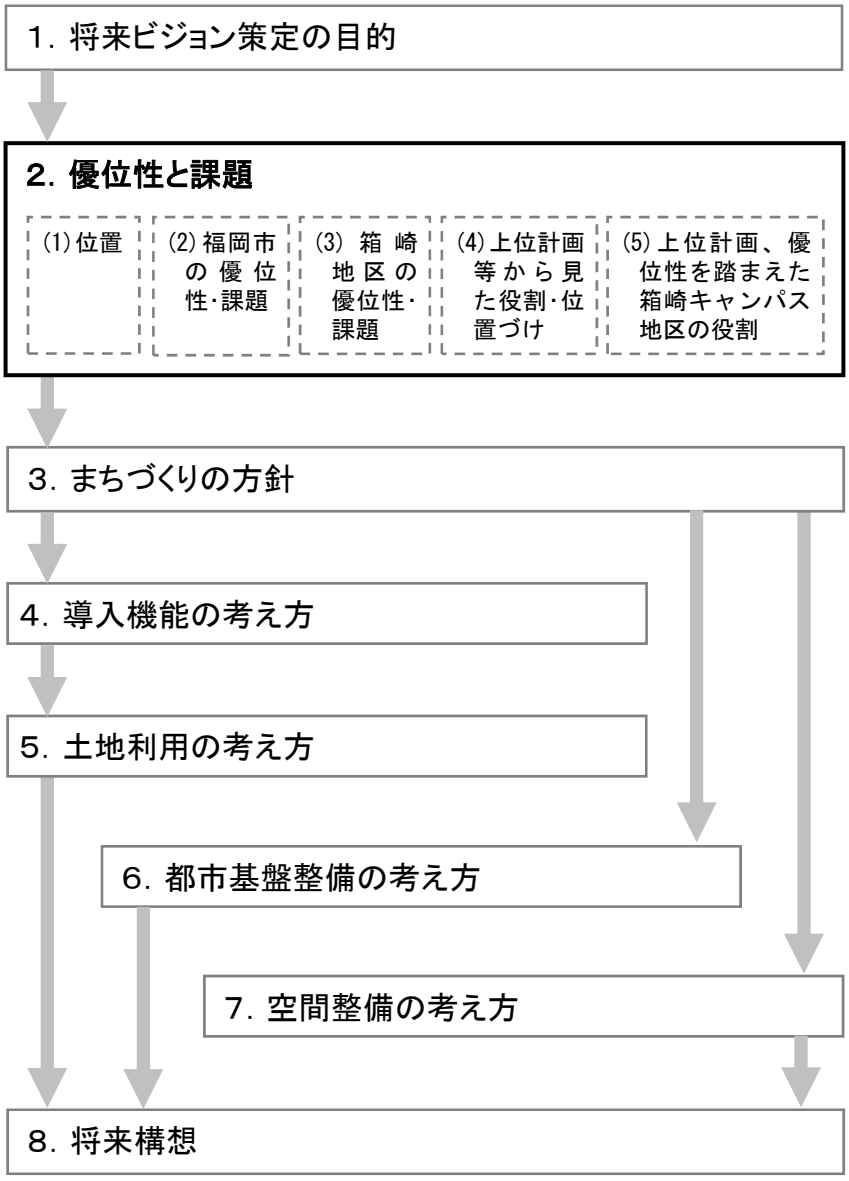
1．多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する

2．周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展する

3．持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる

9．跡地利用（処分）の考え方と今後の検討課題

２．優位性と課題


1. 将来ビジョン策定の目的
2. 優位性と課題
(1) 位置
(2) 福岡市の優位性・課題
(3) 箱崎地区の優位性・課題
(4) 上位計画等から見た役割・位置づけ
(5) 上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
3. まちづくりの方針
4. 導入機能の考え方
5. 土地利用の考え方
6. 都市基盤整備の考え方
7. 空間整備の考え方
8. 将来構想

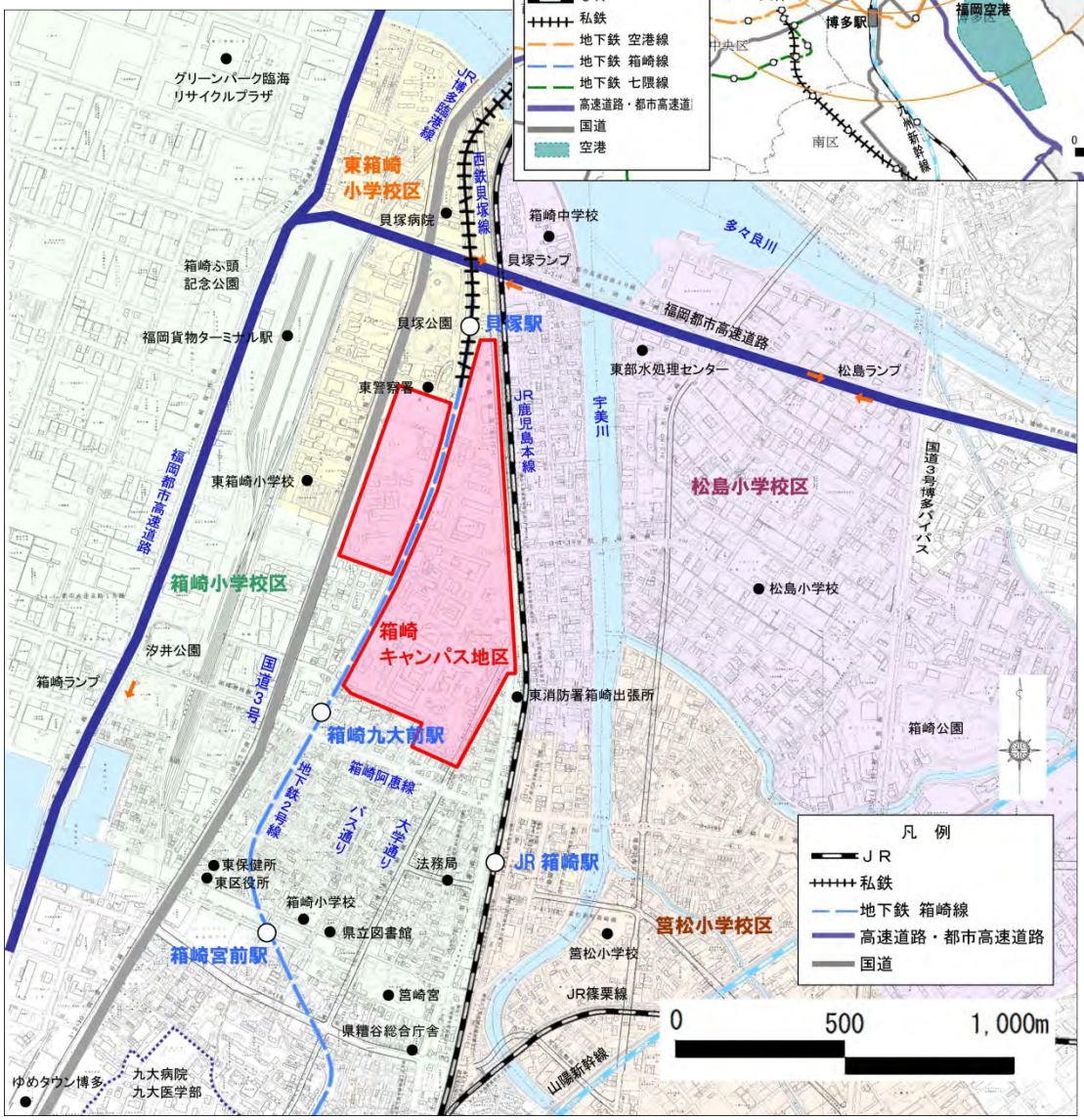
（１）位置

■位置

・箱崎キャンパス地区は、都心部の天神から北東へ約4.5km、博多駅から北へ約4.0kmに位置している。
・西側に博多湾が広がり、北側に多々良川、東側に宇美川が流れている。周辺は平坦な市街地を形成している。
・松島校区、箱松校区の南東側は市境となっており、粕屋町、志免町と接している。

○箱崎地区の位置

○箱崎地区の周辺状況



箱崎地区…箱崎キャンパス地区周辺の４校区及びその周辺
箱崎キャンパス地区…九州大学箱崎キャンパス（文系・農学系・理学系・工学系地区）全体

■概況

＜位置及び地勢＞福岡都心部に近い東区の地域拠点
●福岡都心部に近い東区の地域拠点
●周辺には多々良川、宇美川が流れ、平坦な市街地を形成
●箱崎キャンパス地区の敷地面積は約42.6haであり、天神地区の国体道路、明治通り、大正通り、那珂川に囲まれる範囲程度の広さ

＜上位計画＞「地域拠点」、都心部や広域拠点を補完する「中心市街地」に位置づけられている
●福岡市総合計画では、箱崎地区は「地域拠点」、「中心市街地」、九州大学箱崎キャンパス地区は「機能を充実・転換する地区」に位置づけられている
●福岡市都市計画マスタープランでは、箱崎キャンパスは、地域への貢献や新たな機能の導入等を検討するゾーン、箱崎駅周辺は、利便性が高く界隈性のある地域中心核に位置づけられている
※福岡市総合計画の内容は審議会による答申内容であり、今後変更になる可能性あり
※福岡市都市計画マスタープランは平成25年度改定予定

＜交通＞陸（道路・鉄道）、海、空の交通至便地に近接し、周辺幹線道路は主要な物流動線となる
●福岡空港、博多港、博多駅、福岡インターチェンジは、6km圏内
●【人流】地下鉄箱崎線、JR鹿児島本線、西鉄貝塚線の駅があり交通至便地
●【物流】陸海空の物流拠点が近隣に位置しており、箱崎キャンパス周辺の幹線道路は、それらを結ぶ主要な動線となる

＜事業所の動向＞箱崎周辺で顕著な増減はないが、国道3号沿道で大型商業施設立地が進む
●福岡市東部では、博多駅周辺、アイランドシティ・香椎パークポート周辺等で増加している一方で、箱崎周辺では顕著な増減は見られない
●箱崎ふ頭周辺で運輸倉庫・事業所等が増加
●国道3号沿道で大型商業施設の立地が進んでいる一方で、大学通り周辺で小売店や飲食店等は減少傾向

＜人口＞　箱崎キャンパス周辺4校区の人口伸び率（118％）は、福岡市（108％）より10％高い（H15→H24）
●東区の人口は約29.2万人であり、香椎駅・千早駅周辺、アイランドシティ、箱崎キャンパス周辺で人口が増加
●東区は、大学周辺を中心に外国人人口が多い
●周辺4校区には、約5万人が居住しており、松島校区を筆頭に全ての校区で増加傾向

＜土地利用＞箱崎ふ頭は工業・倉庫中心、国道3号から宇美川まで住・商混在、松島地区は住・商・工が混在
●箱崎キャンパス内は、住居系用途地域（第一種住居、第二種住居）に指定
●航空機の進入路の直下にあり、航空機騒音第1種地域に指定
●箱崎ふ頭周辺は運輸倉庫施設、工業施設が集積。国道3号から宇美川までは住・商混在。松島地区は、住宅系、商業業務系施設と運輸倉庫施設等が混在。多々良川右岸はほとんどが住宅系用途

＜公共公益施設＞公共公益施設が集積し、地域拠点を形成
●箱崎キャンパス南側の箱崎駅周辺に公共公益施設が集積し地域拠点を形成

＜幹線道路の整備状況＞広域幹線網は整備されているが一部路線が見直し対象路線に指定
●周辺の広域幹線道路等は、都市高速道路、国道3号線、国道3号博多バイパス、箱崎阿恵線等が整備
●箱崎キャンパス周辺に限っていえば、幹線道路密度が低く、東西方向の幹線道路が少ない
●福岡市都市計画道路検証結果によると、博多箱崎線（馬出5丁目～箱崎6丁目）が見直し候補路線、堅粕箱崎線（箱崎6丁目～名島橋西）が跡地利用と連携することとして保留路線に位置づけられている

（２）福岡市の優位性・課題

1）立地等の条件

《優位性》

①アジア各都市への近接性

・東アジアのほぼ中心に位置し、半径2,000kmの域内に人口約10億人の巨大市場を形成

・3時間以内に到達できる東アジアの都市は8都市、交流機会人口は5,500万人超

②入国者数国内3位を誇る海外からのゲートウェイ都市

・福岡空港、博多港をあわせると、入国者数で成田、関西国際に次ぐ国内3番目のゲートウェイ都市

③東区に多く立地する大学・短大、若者が多いまち

・東区をはじめ、福岡市内には多数の大学・短大が立地しており、女性や若者が非常に多い

・近年、中国を中心に留学生が急増（中国＋韓国からの留学生　H19：1,717人→H23：2,407人）

《課題》

①大都市と比較した場合の後背地集積の低さ

・3大都市圏や東アジアの大都市に比べ、後背地の人口・都市機能等の集積は相対的に低い

②地理的に水資源に恵まれない立地特性

・過去に水不足を経験するなど、福岡市周辺は地理的に水資源に恵まれない立地特性

2）まちの魅力

《優位性》

①東京に次ぐ国内2位を誇る国際コンベンション開催件数

・福岡市の国際コンベンション開催件数は、東京に次いで「3年連続全国2位」（3位横浜）

・H23年件数：221件（H22年から＋5件）

※出典：JNTO（日本政府観光局）調べ

②東京圏バックアップ機能を担うことができる高い地域ポテンシャル

・東京と同時被災するリスクが低く、都市機能が集積している等、東京圏バックアップ機能を担うことができる高い地域ポテンシャルを有する

③九州大学の先進的な環境技術

・九州大学では、水素エネルギー、風レンズ風車、プラズモン発電など、再生可能エネルギーに関する研究を実施

《課題》

①国及び地方公共団体の厳しい財政状況

・政令市の中で大阪市に次いで高い福岡市の市債残高

②アジア活力を取り込むための需要喚起の必要性

・都市の国際的知名度も低いため、一層のアジア活力を取り込むには新たな需要喚起が必要

③地元大学理工系学生の他県への流出（卒業後）

・人口に占める学生の割合が他都市と比べ高い一方で卒業後特に理工系の学生は他県に流出（福岡都市圏の理系大学生・大学院生のうち、卒業後7割超が県外に流出（H22年度））

3）安全・安心・暮らし

《優位性》

①H37（2035）年まで増加すると予測されている人口

・H22人口：1,443,049人→H27人口：1,467,838人→H32人口：1,481,314人→H37人口：1,482,272人→H42人口：1,471,326人

※資料：国立社会保障・人口問題研究所資料

②国内外からの居住環境に対する高い評価

・「世界の都市総合力ランキング2012」（財団法人森記念財団）
　→世界の35都市の中で福岡市は33位だが、居住分野の評価が3位と高い

・「2012年世界の住みやすい都市上位25」（イギリスの情報誌「MONOCLE」（モノクル））
　→世界25都市の中で福岡市は12位

③災害に強い地理的条件

・福岡付近にはプレート境界は確認されておらず、大津波が発生する危険性は少ない

○アジア各都市への近接性
●大都市と比較した場合の後背地集積の低さ
（アジア活力を取り込むための需要喚起の必要性）

○入国者数国内３位を誇る海外からのゲートウェイ都市

○福岡空港の発着便数
- ・国際線：20路線、420(便／週)
- ・国内線：25路線、354(便／日)

※出典：福岡市のまちづくりと福岡空港（H21.1）より抜粋・加工、便数は、H24.11.23現在時刻表より作成

○博多港国際航路乗降客数
- ・H22年：872,892人
  （うち韓国人　211,165人）

出典：出入国管理統計年報、博多港港湾統計年報

○アジアからのクルーズ船が急増
- ・H21年度　　：寄港　42回
- ・H22年度　　：寄港　84回
- ・H23年度　　：寄港　55回
- ・H24年度(予定)：寄港 104回

※出典：福岡市港湾局調べ

○東区に多く立地する大学・短大、若者が多いまち
●地元大学理工系学生の他県への流出（卒業後）

○東区の大学：4校（九州大学、福岡女子大、九州産業大学等）

○東区の短期大学：3校（九州造形短期大学、福岡工業大学短期大学部等）

■人口千人あたりの大学生数

○若者率(15～29 歳の人口の割合)
大都市中第1位

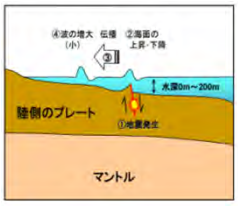
○20代の女性人口比率
大都市中第1位

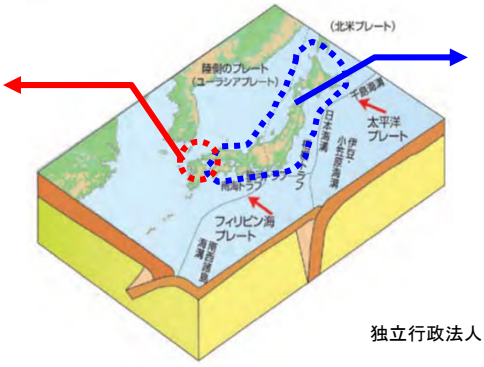
○人口千人あたりの大学生数
大都市中第3位

出典：H22国勢調査

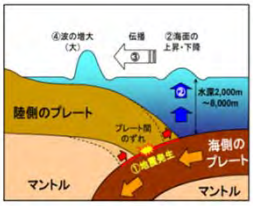
○災害に強い地理的条件

プレート内地震による
津波発生メカニズム





プレート境界型地震による
津波発生メカニズム



独立行政法人 原子力安全基盤機構等の資料から作成

（３）箱崎地区の優位性・課題

1) 立地等の条件

《優位性》

①陸・海・空の多様な輸送手段の集積

・陸(鉄道、高速道路)・海(博多港)・空(福岡空港)の物流・人流拠点が箱崎地区中心半径5km内に集積

②福岡都心部への近接性

・福岡市の都心部である天神地区、博多駅地区まで半径5km圏内であり、鉄道（地下鉄・JR）で結ばれているため、公共交通による都心部へのアクセス性も高い

③地下鉄、JR、西鉄の駅に近接する高い鉄道利便性

・福岡市営地下鉄箱崎九大前・貝塚駅、JR箱崎駅、西鉄貝塚駅が立地し、鉄道利便性が高い

④公共公益施設や商業施設の集積

・東区役所、福岡県粕屋総合庁舎、法務局、県立図書館などの公共公益施設の集積、箱崎商店街などの商業施設の集積

⑤高度医療施設の集積

・九州大学病院や貝塚病院などの高度医療施設の集積

⑥物流・食料品関係企業の集積

・物流の利便性を活かして、箱崎ふ頭～福岡IC間に物流倉庫・工場等が集積し、さらに増加傾向

⑦環境技術を活かした工場・施設の集積

・ごみ焼却の熱を利用した発電所、液化天然ガスの気化熱を利用した冷熱利用施設、再生水の処理施設等、環境技術を活かした工場・施設が周辺に集積

《課題》

①東西市街地の分断、幹線道路の不足

・箱崎キャンパスによって地区が分断されており、東西方向を結ぶ幹線道路が不足

②駅の交通利便性の強化

・貝塚駅の交通結節機能の強化、乗り継ぎ利便性の向上

2) まちの魅力

《優位性》

①九州大学が存在した地としてのブランド力

・九州大学が100年間存在した地として箱崎地区が持っている文教地区としてのブランド力

②筥崎宮等の歴史的・文化的地域資産の集積

・筥崎宮、地蔵松原、元寇防塁など、箱崎1000年の歴史的・文化的価値がある地域資産の集積

③地域の貴重な緑の空間となる箱崎キャンパス

④外国人居住者の多さ、それを支える生活環境の充実度

・留学生や研究者をはじめとした外国人が多く居住

⑤活発な地域まちづくり活動の取り組み

・九大跡地利用4校区協議会、箱崎まちづくり委員会、その他各種イベントの開催（NPO筥崎まちづくり放談会、箱崎商店連合会等）

《課題》

①小売店や飲食店等の減少

・大学通り周辺の商店街等では、小売店や飲食店が減少傾向にあり、業態の転換が進んでいる

3) 安全・安心・暮らし

《課題》

①箱崎キャンパス南側の密集市街地

・箱崎キャンパスの南側市街地では、木造建物が密集し、狭隘道路が多いため防災対策が課題

②航空機騒音、集中豪雨による浸水被害等

・航空機進入路直下にあり、離着陸時における航空機騒音が課題、過去に集中豪雨による浸水被害が発生した場所では浸水対策が課題

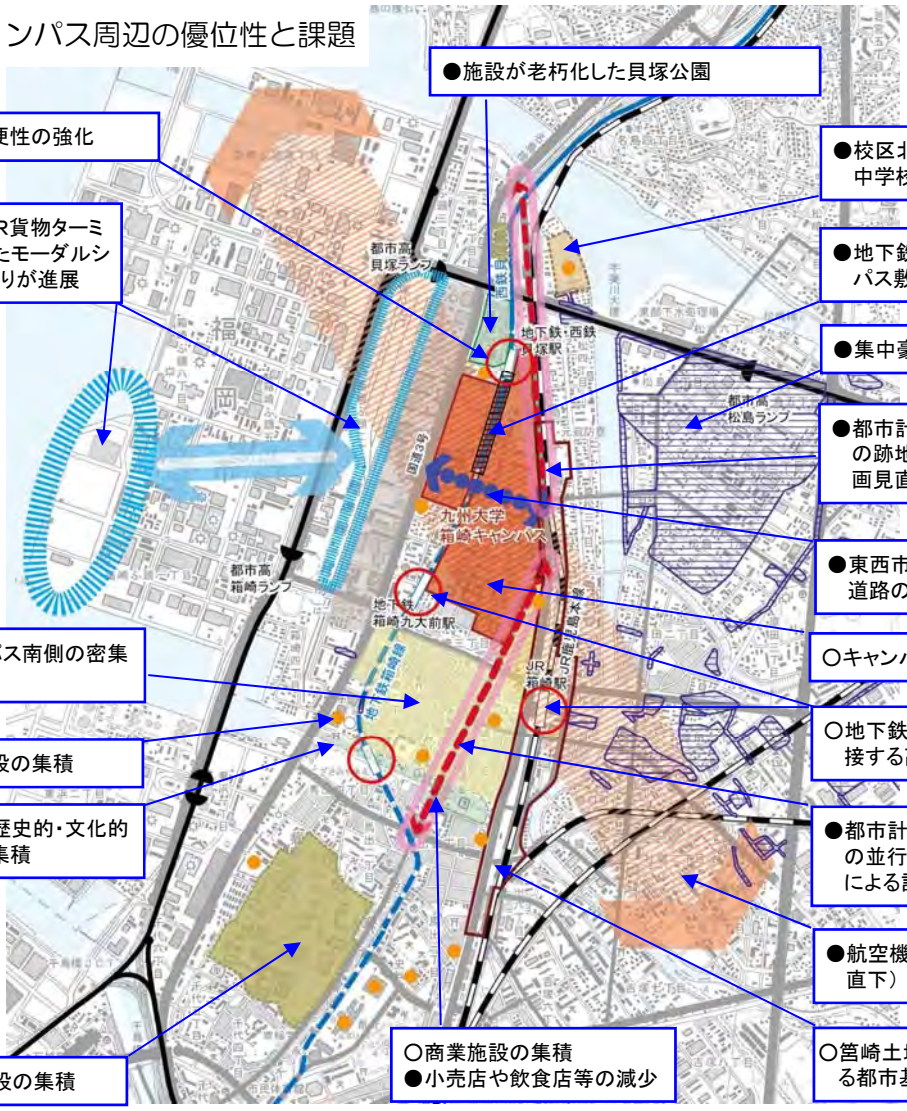
③箱崎キャンパス南側の公園不足

・箱崎キャンパス南側では、街区公園、近隣公園等の公園が不足

④防犯体制の強化

・東区の犯罪認知件数は博多区、中央区に次いで3番目に高く、防犯対策の強化が課題

■箱崎キャンパス周辺の優位性と課題



●施設が老朽化した貝塚公園

●駅の交通利便性の強化

○箱崎ふ頭、JR貨物ターミナルを活用したモーダルシフトの拠点づくりが進展

●校区北端に位置する箱崎中学校

●地下鉄地上部によるキャンパス敷地の分断

●集中豪雨による浸水被害

●都市計画道路堅粕箱崎線の跡地利用とあわせた、計画見直しの検討

●東西市街地の分断、幹線道路の不足

○キャンパス内の近代建築物

●箱崎キャンパス南側の密集市街地

○公共公益施設の集積

○地下鉄、JR、西鉄の駅に近接する高い鉄道利便性

○筥崎宮等の歴史的・文化的地域資産の集積

●都市計画道路博多箱崎線の並行路線への機能代替による計画見直しの検討

●航空機騒音（航空機進入路直下）

○商業施設の集積
●小売店や飲食店等の減少

○筥崎土地区画整理事業による都市基盤整備

○高度医療施設の集積

○陸・海・空の多様な輸送手段の集積

○環境技術を活かした工場・施設の集積

ごみ焼却発電所（クリーンパーク・臨海）

東部再生水処理施設

液化天然ガスの冷熱利用施設（西部ガス冷熱冷蔵物流センター、福岡市中央卸売市場臨海市場）

凡　例

- ＪＲ線
- 地下鉄箱崎線
- 西鉄貝塚線
- 都市高速道路
- 鉄道駅
- 公共公益施設
- 筥崎土地区画整理事業
- 物流施設（港湾）
- 木造密集
- 高度医療施設
- 都計道の見直し区間
- 航空機進入方向
- 過去浸水した区域

○・・・優位性

●・・・課題

（４）上位計画等から見た役割・位置づけ

①「福岡市」の役割・位置づけ

・「アジア」における役割…諸都市のモデルとなる経済発展と質の高い生活のバランスがとれた持続可能な都市として、また、文化的にも経済的にも継続的に発展する拠点としての役割。
・「日本」における役割…学術、文化、経済などさまざまな面で日本とアジアをつなぐ役割。また、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割。
・「九州」における役割…経済、行政、情報、文化、交通の高次機能を備えた中枢都市として、九州全体の成長の促進や安全安心への貢献を果たすという役割。
・「福岡都市圏」における役割…都市圏住民の生活のためのさまざまな機能を提供する母都市としての役割。

■福岡市総合計画（H24.11答申）　第９次福岡市基本計画　　第１章　総論

「3. 都市経営の基本戦略　(2)福岡都市圏全体として発展し、広域的な役割を担う」より抜粋

○ 福岡市は、都市圏の各市町との連携を基盤にして、九州・日本・アジアとの関係においても、次のような広域的な役割を担っていきます。

①九州における役割

・福岡市は、九州のゲートウェイとして、情報発信や域外とのネットワークの機能をもち、多様な都市間の連携の中で、文化、教育、経済、情報などさまざまな高次機能を備え、九州全体の成長を促進するとともに、災害時における市域を越えた支援など、九州全体の安全・安心に貢献する役割を担っていきます。

②日本における役割

・福岡市は日本海側最大の都市であり、アジアに近い位置にあることから、我が国におけるアジアを向いた都市として、学術、文化、経済などさまざまな面で日本とアジアをつなぐ役割を担っていきます。
・東日本大震災以降、福岡市に企業の本社機能の一部などを移転する事例が増加しているほか、首都圏の中枢機能の継続が不可能となった際の、首都機能の代替拠点の候補にも挙がっており、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割を担っていきます。

③アジアにおける役割

・福岡市は、経済発展と質の高い生活のバランスがとれた持続可能な都市として、都市デザイン、環境、上下水道、交通、福祉などの分野において、今後発展していくアジアの諸都市のモデルとなるとともに、人材や交流の蓄積を生かし、アジアと共に、文化的にも経済的にも継続的に発展する拠点としての役割を担っていきます。

※上記は福岡市総合計画審議会による答申内容であるため、今後、変更になる可能性があります（内容が確定した後、記述内容の更新を行います）。

■福岡市総合計画（H24.11答申）　第９次福岡市基本計画　　第１章　総論

「6. 福岡市を取り巻く状況　（3）福岡市の広域的な役割」より抜粋

①都市圏の母都市

・福岡市は、1市のみで、福岡都市圏9市8町の人口の約6割、域内総生産はおよそ4分の3を占めている都市圏の母都市

・多くの福岡都市圏住民の就業場所、通学場所となっているほか、こども病院や文化施設など、都市圏住民の生活のためのさまざまな機能を提供

②九州の中枢

・福岡市は1市のみで、九州の人口の約11％、大学・短大学生数の約31％、域内総生産の約16％、事業所数の約12％、従業者数の約15％、卸売業の年間販売額の約45％、小売業の年間販売額の約14％を占めている

・多くの官公庁の出先機関や全国企業の支社などが置かれ、大学などの高等教育機関や、報道機関、商業・情報通信などの高度都市機能、陸・海・空の広域交通機能集積など、経済、行政、情報、文化、交通のいずれにおいても九州の中枢機能を有している

③アジアとの充実したネットワーク

・福岡市は、福岡空港から飛行機で釜山まで50分、上海まで90分で結ばれ、博多港から高速艇で釜山まで3時間弱で結ばれる日本で一番アジアに近い大都市

・福岡市は高速道路やJR等の鉄道、新幹線、飛行機により九州の主要都市を始め全国各地と直接結ばれているほか、アジアから日本各地への陸上、海上、航空輸送の中継地点としても重要なハブ機能を有している

※上記は福岡市総合計画審議会による答申内容であるため、今後、変更になる可能性があります（内容が確定した後、記述内容の更新を行います）。

②「箱崎地区」の役割・位置づけ

・「箱崎地区」は「福岡市」の「地域拠点」として、区やそれに準ずる生活圏域の中心拠点となる役割を担う地区。
また、地域の歴史・文化資源や商店街を活かしながら、九州大学移転跡地、筥崎土地区画整理事業などの新しいまちづくりを契機とし、周辺のまちも一体となったまちづくりを進める地区。
・「箱崎キャンパス地区」は「機能を充実・転換する地区」として、新たな都市機能の導入などを検討する地区。

■福岡市総合計画（H24.11答申）　第９次福岡市基本計画　第２章　計画各論

「2. 空間構成目標　(2)めざす姿」より抜粋

①箱崎地区
・地域拠点：区やそれに準ずる生活圏域の中心として、日常生活に必要な商業機能やサービス機能など諸機能が集積した地区
※その他の地域拠点：和白、雑餉隈、六本松・鳥飼・別府、長住・花畑、野芥、姪浜、橋本、今宿・周船寺

②九州大学箱崎キャンパス地区
・機能を充実・転換する地区：市街地内の貴重な大規模活用可能地として、大学の移転進捗を踏まえ、新たな都市機能の導入などを検討する地区
※その他の機能を充実・転換する地区：舞鶴公園・大濠公園地区

「3. 区のまちづくりの目標　東区」より抜粋

○歴史・文化、自然の魅力を生かし、新しい可能性を生み出すまち
・東区のシンボルとなる行事や歴史・文化的な資産の魅力を磨き、海・川・山の水辺や緑などの自然環境を守り、これらの地域の魅力、特色を生かしたまちづくりを進めます。
・また、九州大学の移転に伴う箱崎キャンパス跡地は、将来の都市活力の一端を担うポテンシャルを有しており、既存施設の活用、土地利用の転換による新たな都市機能の導入などの検討を進めます。

※上記は福岡市総合計画審議会による答申内容であるため、今後、変更になる可能性があります（内容が確定した後、記述内容の更新を行います）。

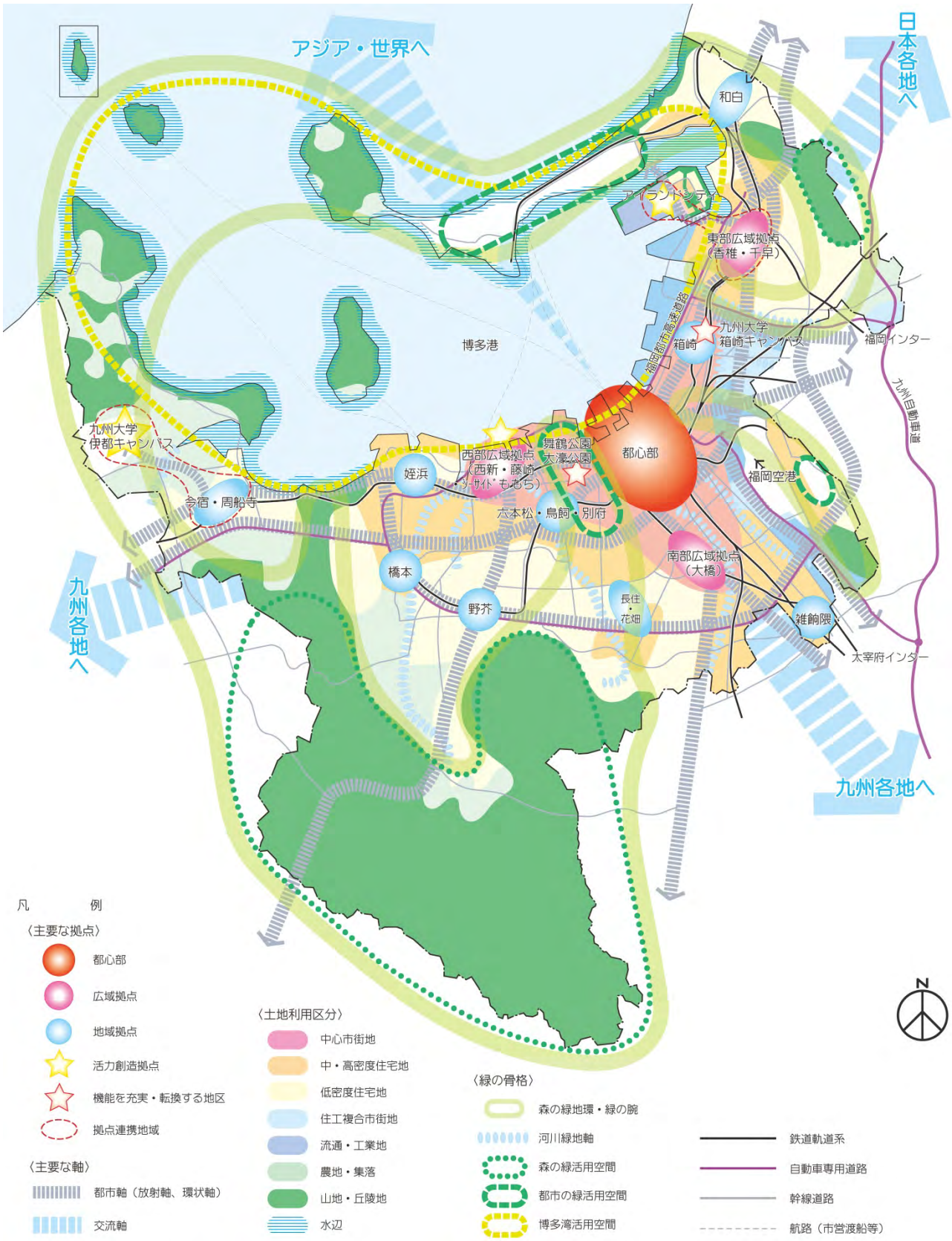
◇福岡都市計画事業筥崎土地区画整理事業

【事業概要】
・施行面積：27.8ha　・施行者：福岡市　・総事業費：498億円

【事業の目的】
・この事業の目的は、都市計画道路の整備、JR鹿児島本線の高架化、既成市街地の再構築を中心に、歴史と文化が調和した総合的な市街地の形成を図ると同時に、都市計画道路を根幹とした区画道路、公園等の公共施設を整備改善することにより、面的な生活空間を確保し、良好な居住環境の向上を図り公共の福祉に寄与することにあります。

（４）上位計画等から見た役割・位置づけ

【都市空間構想図】



※上記の内容は答申のため、変更になる可能性があります（内容が確定した後、記述内容の更新を行います）。

（５）上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割

■福岡市の役割

アジアの中で

・経済発展と質の高い生活のバランスがとれた持続可能な都市としてアジアのモデルとなる役割
・アジアと共に文化的にも経済的にも継続的に発展する拠点としての役割

日本の中で

・学術、文化、経済等さまざまな面で日本とアジアをつないでいく役割
・首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割

九州の中で

・九州のゲートウェイとして、また、経済、行政、情報、文化、交通、教育等さまざまな高次機能を備えた中枢都市として、九州全体の成長の促進や安全、安心に貢献する役割

福岡都市圏の中で

・就業、就学や病院、文化施設など、都市圏住民の生活のためのさまざまな機能を提供する都市圏の母都市としての役割

■箱崎地区の役割

【位置づけ】

・地域拠点
・機能を充実・転換する地区

【優位性等】

1)立地等の条件
○陸・海・空の多様な輸送手段の集積
○福岡都心部への近接性
○地下鉄、JR、西鉄の駅に近接する高い鉄道利便性
○公共公益施設や商業施設の集積
○高度医療施設の集積

2)まちの魅力
○九州大学が存在した地としてのブランド力
○東区に多く立地する大学・短大、若者が多いまち

3)安全・安心・暮らし
○災害に強い地理的条件

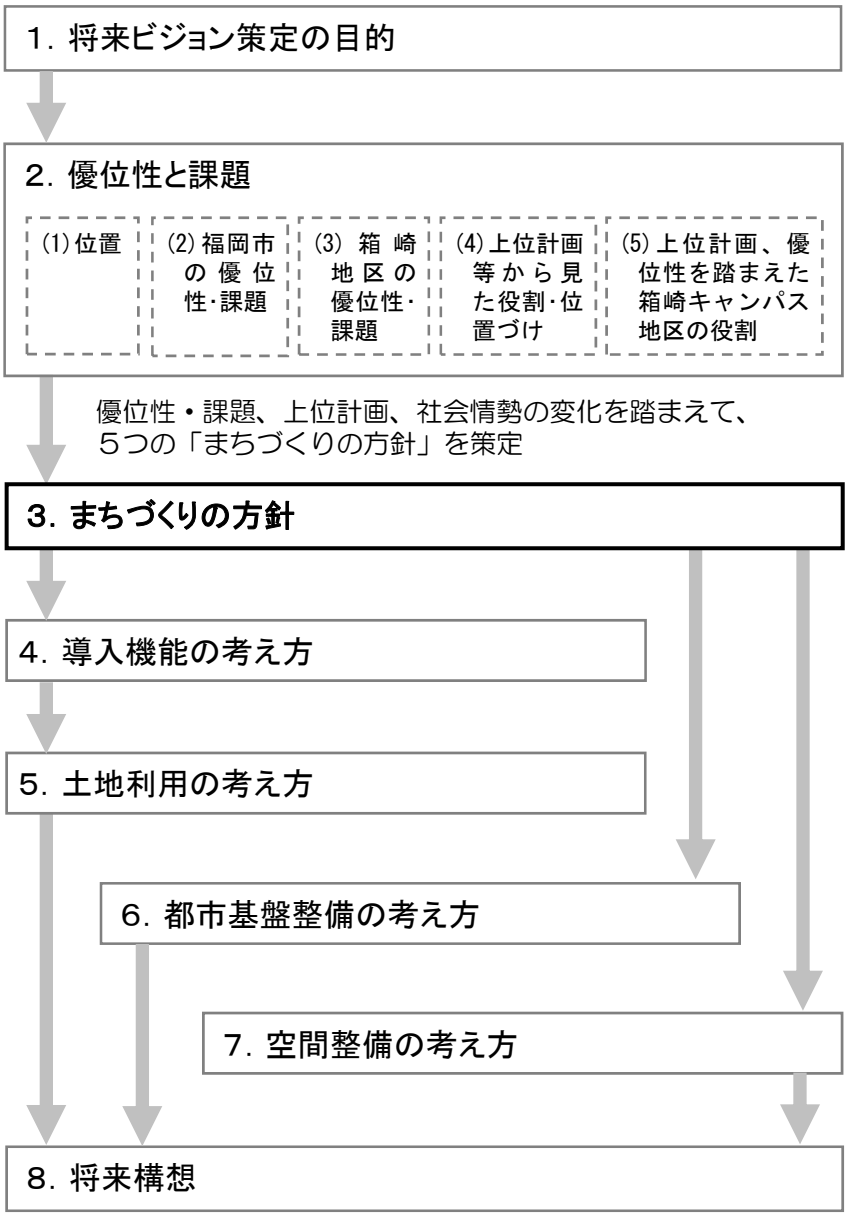
■福岡市の中で箱崎キャンパス地区が担うべき役割

・陸・海・空の多様な輸送手段の集積、福岡都心部への近接性、高い鉄道利便性を活かして、文化、経済等の面で様々な地域・人などをつないでいく役割
・高度医療施設の集積など既存施設との連携が可能な機能の誘導等により、福岡市の成長の促進に貢献する役割
・公共公益施設等の集積を活かし、都市圏住民に対して、今以上にさまざまな機能を提供する役割

・学術、文化等の面で、東区に多く立地する大学・短大とアジアとつないでいく役割
・九州大学が存在したブランド力を活かし、教育・研究等の機能誘導等により、九州全体の成長の促進に貢献する役割

・災害に強い地理的条件を活かして、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割を果たすなど、安全、安心に貢献する役割

3．まちづくりの方針


1．将来ビジョン策定の目的
2．優位性と課題
(1)位置
(2)福岡市の優位性･課題
(3)箱崎地区の優位性･課題
(4)上位計画等から見た役割･位置づけ
(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
優位性・課題、上位計画、社会情勢の変化を踏まえて、
５つの「まちづくりの方針」を策定
3．まちづくりの方針
4．導入機能の考え方
5．土地利用の考え方
6．都市基盤整備の考え方
7．空間整備の考え方
8．将来構想

まちづくりの方針

優位性

【福岡市】

1)立地等の条件
①アジア各都市への近接性■
②入国者数国内3位を誇る海外からのゲートウェイ都市■
③東区に多く立地する大学・短大、若者が多いまち■

2)まちの魅力
①東京に次ぐ国内2位を誇る国際コンベンション開催件数■
②東京圏バックアップ機能を担うことができる高い地域ポテンシャル■■
③九州大学の先進的な環境技術■

3)安全・安心・暮らし
①H37(2035)年まで増加すると予測されている人口■■
②国内外からの居住環境に対する高い評価■
③災害に強い地理的条件■

【箱崎地区】

1)立地等の条件
①陸・海・空の多様な輸送手段の集積■
②福岡都心部への近接性■■■
③地下鉄、JR、西鉄の駅に近接する高い鉄道利便性■■■
④公共公益施設や商業施設の集積■■
⑤高度医療施設の集積■■
⑥物流・食料品関係企業の集積■
⑦環境技術を活かした工場・施設の集積■

2)まちの魅力
①九州大学が存在した地としてのブランド力■■
②筥崎宮等の歴史的・文化的地域資産の集積■
③地域の貴重な緑の空間となる箱崎キャンパス■
④外国人居住者の多さ、それを支える生活環境の充実度■
⑤地域の活発なまちづくり活動■

課題

【福岡市】

1)立地等の条件
①大都市と比較した場合の後背地集積の低さ■
②地理的に水資源に恵まれない立地特性■

2)まちの魅力
①国及び地方公共団体の厳しい財政状況
②アジア活力を取り込むための需要喚起の必要性■
③地元大学理工系学生の他県への流出(卒業後)■■

【箱崎地区】

1)立地等の条件
①東西市街地の分断、幹線道路の不足■
②駅の交通利便性の強化■■■

2)まちの魅力
①小売店や飲食店等の減少■■

3)安全・安心・暮らし
①箱崎キャンパス南側の密集市街地■
②航空機騒音、集中豪雨による浸水被害等■
③箱崎キャンパス南側の公園不足■■
④防犯体制の強化■

※末尾の色（■等）は、まちづくりの方針のそれぞれの色に対応

箱崎キャンパス地区が担うべき役割

1)立地等の条件

①陸・海・空の多様な輸送手段の集積、福岡都心部への近接性、高い鉄道利便性を活かして、文化、経済等の面で様々な地域・人などをつないでいく役割■

②高度医療施設の集積など既存施設との連携が可能な機能の誘導等により、福岡市の成長の促進に貢献する役割■

③公共公益施設等の集積を活かし、都市圏住民に対して、今以上にさまざまな機能を提供する役割■

2)まちの魅力

①学術、文化等の面で、東区に多く立地する大学・短大とアジアとつないでいく役割■

②九州大学が存在したブランド力を活かし、教育・研究等の機能誘導等により、九州全体の成長の促進に貢献する役割■

3)安全・安心・暮らし

①災害に強い地理的条件を活かして、首都圏に集中する各種機能の補完や機能分散の受け皿としての役割を果たすなど、安全、安心に貢献する役割■

上位計画・関連施策

1)上位計画

①福岡市基本構想

都市像　「住みたい、行きたい、働きたい。
アジアの交流拠点都市・福岡」

・自律した市民が支え合い心豊かに生きる都市■
・自然と共生する持続可能で生活の質の高い都市■■
・海に育まれた歴史と文化の魅力が人をひきつける都市■
・活力と存在感に満ちたアジアの拠点都市■

②第9次福岡市基本計画

・箱崎地区…地域拠点
・箱崎キャンパス地区…機能を充実・転換する地区
■■■■■

2)関連施策

③グリーンイノベーションの新たな創造■■
④「ユニバーサル都市・福岡」の実現■
⑤東京圏機能バックアップ先としての適合性の整理、検討■■
⑥博多港の機能強化■
⑦「福岡市景観計画」の施行（平成24年度予定）■

社会情勢の変化（国の政策動向等）

①日本の総人口、生産年齢人口の減少■
②単独世帯、特に高齢者単独世帯の増加 ■■
③平均気温の上昇（今後40年間で2度）、降水量の増加 ■
④国土基盤の維持管理・更新費の増加（2030年頃に倍増）■
⑤アジアを中心とした世界でのビジネス展開の拡大 ■
⑥新産業・新市場の創出、地域における雇用創出■
⑦災害に強い住宅・地域づくりの推進■
⑧集約型の安全なまちづくりの推進■■
⑨低炭素・循環型システム構築の推進■
⑩産学官の連携による人材育成システム構築の推進■
⑪人口減少等による税収の落ち込みに伴う国、自治体の厳しい財政状況　等

まちづくりの方針

1　福岡市の持続的な成長に資する 新たな活力・交流を生み出す

福岡都心部に近い大規模な土地利用が可能な土地であり、交通利便性の高い立地特性を生かしながら、「新たな産業・雇用の創出」「広域連携拠点づくり」「交流と賑わいの創出」等を進め、福岡市の持続的な成長に貢献する、新たな活力・交流を生み出すまちを目指します。

2　九州大学が存在した地として、 充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる

「九州大学」が百年存在した地としてのブランドを生かしながら、「新たな高等教育・研究機関や生涯教育の場の導入」「留学生・研究者等の受け入れ環境の活用」等を進め、充実した教育・研究の環境を生み出し、人を育てるまちを目指します。

3　高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、 安全・安心・快適で健やかに暮らす

災害に強い地理的条件を生かすとともに、周辺の高度医療施設や生活利便施設の集積、交通アクセスの良さなどの高い利便性を生かして、「防災活動の場の創出」「医療・福祉・健康づくり環境の充実」「快適な居住環境の創出」を進め、だれもが安全・安心・快適で健やかに暮らすことができるまちを目指します。

＜跡地利用にあたって踏まえるべき視点＞

4　千年のまち、大学百年の 歴史文化資源を大切にする

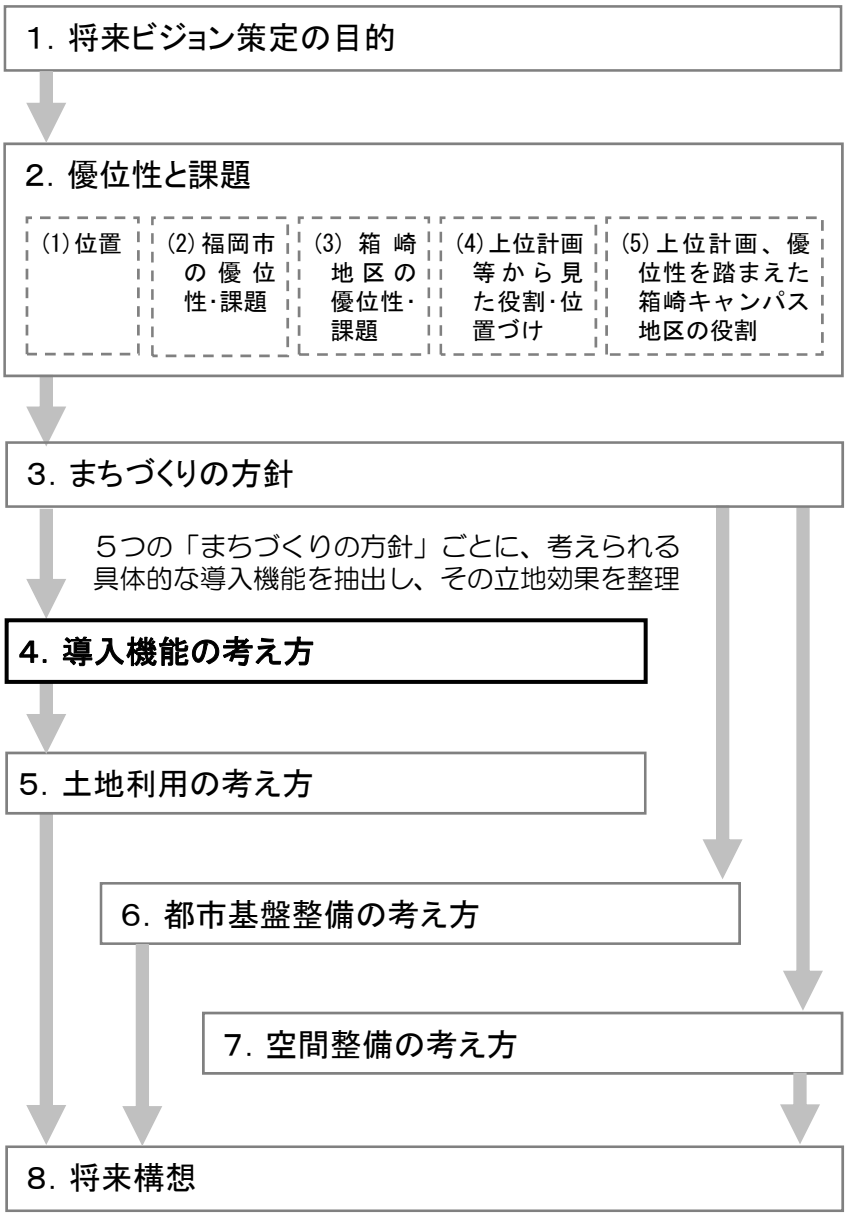
千年以上の歴史を誇る筥崎宮や旧箱崎宿の町屋、百年の時を刻んだ箱崎キャンパスなど、箱崎のまち全体が有する「まちの生い立ちの継承」「九州大学の近代建築物の活用の検討」を進め、歴史文化資源を大切にするまちを目指します。

5　次世代の環境技術と豊かな緑を生かして 環境と共生し、持続可能なまちをつくる

地域の貴重な緑の空間であるキャンパス内の既存樹木を生かすとともに、九州大学の先進的な環境技術を活用し、「低炭素」で「水や資源を生かし」「緑・水辺との共生」を進め、環境と共生し、持続可能なまちの形成を目指します。

＜まちづくりの方針のキーワード＞

４．導入機能の考え方


１．将来ビジョン策定の目的
２．優位性と課題
(1)位置
(2)福岡市の優位性･課題
(3)箱崎地区の優位性･課題
(4)上位計画等から見た役割･位置づけ
(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
３．まちづくりの方針
５つの「まちづくりの方針」ごとに、考えられる具体的な導入機能を抽出し、その立地効果を整理
４．導入機能の考え方
５．土地利用の考え方
６．都市基盤整備の考え方
７．空間整備の考え方
８．将来構想

導入機能の考え方

■基本的な考え方

1．まちづくりの方針に基づいた導入機能の検討

・福岡市や箱崎地区の優位性等から導入が考えられる機能、課題を解決するために必要と考えられる機能、国、市等が政策的に取り組む必要がある機能など、「3．まちづくりの方針」に示された5つの考え方に基づき、箱崎キャンパス地区に求められ、かつ導入の可能性がある機能を検討し、幅広く抽出する。

2．周辺地域等への波及効果を考慮した導入機能の検討

・「広域（アジア・日本・九州等）」「福岡市及び福岡都市圏」「箱崎地区」など、広域から地域まで幅広いエリアに対する波及効果を考慮しながら、導入機能の検討を行う。

3．社会情勢等を踏まえた柔軟な対応

・この導入機能は、現段階でこの地区に導入が考えられる機能を整理したものであり、今後、民間需要の動向、社会情勢の変化などを踏まえ、柔軟な対応を図る。

・よって、これらの機能を全て導入するものではなく、また、これら以外の機能は導入しないというものでもない。

方針 1

福岡市の持続的な成長に資する
新たな活力・交流を生み出す

成長・活力・交流

【導入機能】

（1）新たな産業・雇用の場の創出

福岡都心部、九州大学病院地区、箱崎ふ頭・JR貨物ターミナル等との近接性を生かした、**新産業創造に関わる企業やベンチャーの誘致**など、新たな産業・雇用の場の創出

【例】　○新産業創造機能　○業務商業機能

（2）立地特性を生かした広域連携拠点づくり

福岡都心部に近く、大規模な土地を有し、交通利便性の高い立地条件を生かした、**道州制導入など広域行政の見直しや国土全体の危機管理体制のあり方を踏まえた機能集積**の促進

【例】　○広域行政機能
○東京圏バックアップ機能（首都機能の補完、機能分散の受け皿）

（3）文化・スポーツ・コンベンションを通じた交流と賑わいの創出

空港や博多駅に近く、車での来街も容易な立地条件を生かした、福岡都市圏のみならず、北九州地域、中国地域、アジア地域からの集客も見込んだ**文化・スポーツ・コンベンション等を支援・促進する施設**の導入検討

【例】　○コンベンション機能　○スポーツ・交流　○文化発信機能

◆期待される効果

【広域（アジア・日本・九州等）に対して】
○文化、経済などさまざまな面で日本とアジアをつなぐ役割を担う機能の立地→アジアとの交流活性化
○首都圏に集中する各種機能の補完・機能分散の受け皿となる役割、九州全体の安全・安心に貢献する役割を担う機能の立地→日本、九州全体の危機管理体制の強化

【福岡市及び福岡都市圏に対して】
○商業・業務・行政等機能の立地による新たな雇用の場の創出→就業人口の増加による経済活動の活発化
○文化・スポーツ・コンベンション等交流施設の導入→来街人口の増加による交流活性化

【箱崎地区に対して】
○就業人口の増加→商店街・周辺飲食店等を利用する人の増加
○来街人口の増加→箱崎地域の歴史文化資源を訪れる人、箱崎のまちを「そうつく」人の増加

方針 2

九州大学が存在した地として、充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる

教育・研究

【導入機能】

（1）新たな教育・研究機関の導入

九州大学が100年存在した教育や知の拠点としての経緯を踏まえ、社会を牽引する個性と創造性の富んだ人材を育成する場として継承するための、**新たな高等教育・研究機関や生涯教育の場の導入**

【例】　○教育・人材育成機能　○研究・開発機能

（2）これまでの外国人留学生、研究者等の受け入れ環境の活用

大学・短期大学等の高等教育機関の集積や、留学生や研究者をはじめとした外国人がすでに多く居住し、一定の受け入れ環境が整っていることを生かした、**外国人研究者や留学生が暮らし、活動する場の創出**

【例】　○留学生等支援機能

◆期待される効果

【広域（アジア・日本・九州等）に対して】
○学術の面で日本とアジアをつなぐ役割を担う機能の立地→アジアとの交流活性化

【福岡市及び福岡都市圏に対して】
○新たな教育機関の導入→将来を担う人材の育成

【箱崎地区に対して】
○就学・就業人口の増加→商店街・周辺飲食店等を利用する人の増加
○新たな教育機関の導入→文教地区としてのブランド（九州大学が立地していたときの地域イメージ）の継承
○外国人研究者・留学生の増加→アジアの他地域との交流活性化

方針 3

高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、
安全・安心・快適で健やかに暮らす

安全・安心・健やか

【導入機能】

（1）災害に対応できる防災活動の場の創出

津波の危険性が少ないことや警固断層帯から離れている等、災害に強い地理的条件を生かした、災害発生等の緊急時における復旧・復興、物資の中継基地となる**広域防災拠点や市民の避難場所などの防災活動の場の創出**

【例】　○防災機能

（2）九州大学病院等の立地を生かした医療・福祉・健康づくり環境の充実

周辺に九州大学病院等の高度医療施設が立地する強みを生かした、**だれもが安心して暮らせる**ような更なる**医療・福祉施設の誘導**、今後増加する**高齢者などの健康増進につながる機能**の誘導、及びそれらと連携した**快適な住環境の創出**

【例】　○医療・福祉機能　○健康増進機能

（3）交通アクセス性などのポテンシャルを生かした快適な居住環境の創出

都心部への交通アクセスの良さや生活利便施設の集積などのポテンシャルを生かした、だれもが**快適に居住できる環境の創出**

【例】　○生活利便機能　○居住機能

◆期待される効果

【広域（アジア・日本・九州等）に対して】
○緊急時における復旧・復興、物資の中継基地となる広域防災拠点→広域的な防災体制の強化

【福岡市及び福岡都市圏に対して】
○居住環境の創出→人口増加→福岡市の活力維持

【箱崎地区に対して】
○居住人口の増加→まちづくり等に参加する人口の増加、まちづくり活動の活性化、商店街・周辺飲食店等を利用する人の増加
○医療・福祉施設と連携した住環境の創出→暮らしの安心度向上

方針 4

千年のまち、大学百年の
歴史文化資源を大切にする

歴史文化

【導入機能】

（1）周辺の歴史文化資源と連携するなど、まちの生い立ちを継承

箱崎地区は、古くは筥崎宮の門前町、糟屋郡の政治･経済の中心地、さらに明治以降は九州大学のある学問の殿堂として1000年以上の歴史を誇るまち

筥崎宮～唐津街道～地蔵松原道等の歴史的･文化的な地域資源を活用するなど、歴史、伝統、文化のある箱崎のまちの生い立ちを踏まえ、地域の個性を生かし、歴史文化を継承するまちづくりの推進

【例】　・筥崎宮などの歴史文化資源をつなぐ歩行者回遊動線　など

（2）九州大学の歴史文化資源の活用

九州大学箱崎キャンパスに残された大正から昭和初期にかけて建築され、特徴的な意匠を有する校舎などの**近代建築物の活用検討**

【例】　・近代建築物の保存活用
　　・近代建築物を記録として保存　など

◆期待される効果

【広域（アジア・日本・九州等）に対して】

【福岡市及び福岡都市圏に対して】
〇歴史的・文化的な地域資源の活用
→福岡市の新たな歴史観光拠点の形成→文化的都市としてのブランド向上

【箱崎地区に対して】
〇来街人口の増加
→箱崎地域の歴史文化資源を訪れる人、箱崎のまちを「そうつく」人の増加
→商店街・周辺飲食店等を利用する人の増加
→まちづくり活動の活性化、他地域（歴史文化資源を活かしたまちづくりを実施している地域等）との交流活性化
〇歴史的・文化的な地域資源の活用、近代建築物の保存・活用
→歴史・文化が香るまちとしての魅力向上
→九州大学の記憶の継承

方針 5

次世代の環境技術と豊かな緑を生かして

環境と共生し、持続可能なまちをつくる

環境・エネルギー

【導入機能】

（1）低炭素なまちの創造

地球温暖化問題への対応と化石エネルギー資源制約からの脱却の点から**エネルギーマネジメントの導入**、自然エネルギー、未利用エネルギーなどの**再生可能エネルギーの活用**

【例】
- エネルギーマネジメントの導入
- 水素・再生可能エネルギーの利用　など

（2）水や資源を生かすまちの創造

一級河川が市内に流れていないなど地理的に水資源に恵まれず、過去の異常少雨による渇水の経験がある福岡市における、健全な水循環の創造を目指した**雨水や下水再生水の有効利用**、**都市活動による廃棄物の再資源化**等の実施による循環型社会の形成

【例】
- 水資源の有効利用（再生水の活用等）
- 循環型システムの形成　など

（3）箱崎キャンパスとその周辺にある緑・水辺と共生するまちの創造

箱崎キャンパスの**既存樹木を踏まえた緑の配置の実施**、及び**住民など多様な主体による緑管理の仕組みづくりの検討**

【例】
- 地蔵松原と称された松林などの既存樹木の保存・活用
- 多様な主体による緑の管理
- 多々良川、宇美川等の水辺を繋ぐ歩行者回遊動線　など

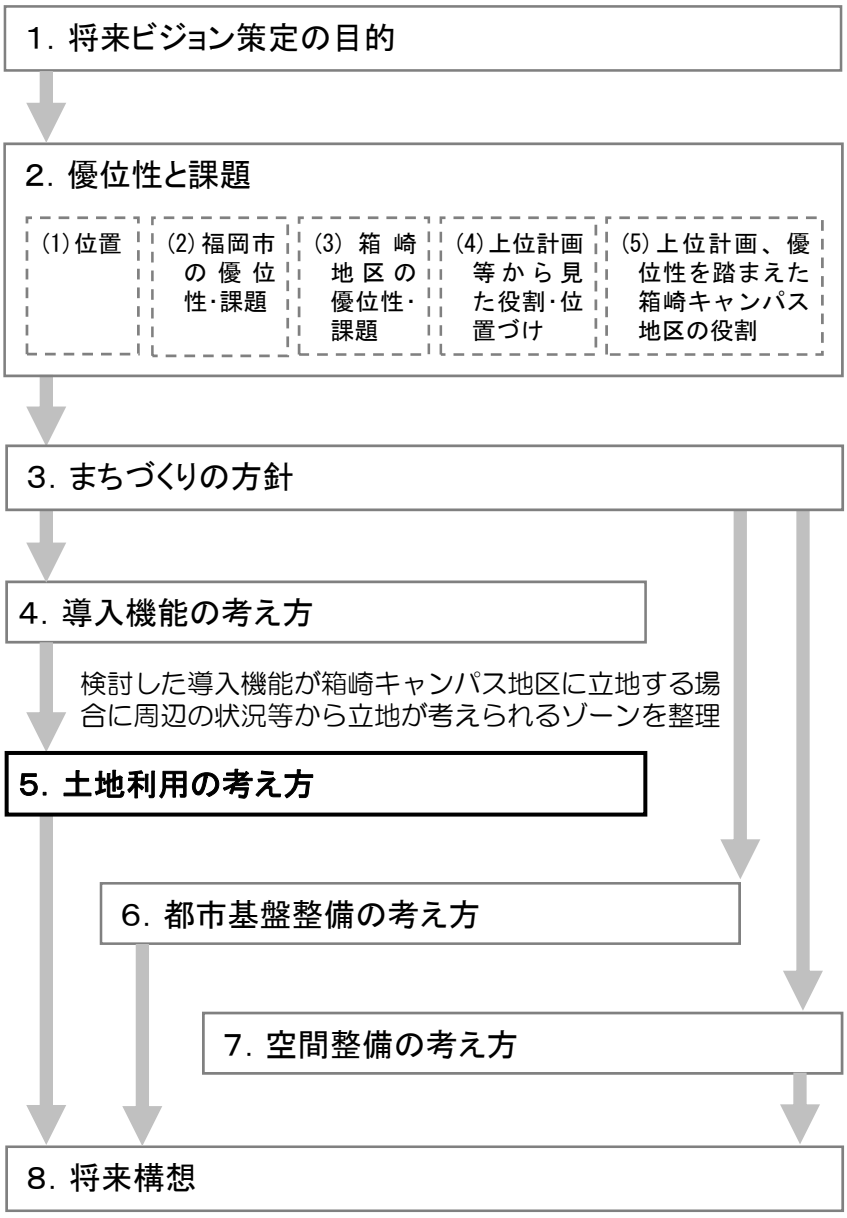
◆期待される効果

【広域（アジア・日本・九州等）に対して】
○低炭素・循環型まちづくりの推進（福岡市基本構想：都市像２）→環境負荷低減効果（地球にやさしいまちづくりの推進）

【福岡市及び福岡都市圏に対して】
○アイランドシティとともに低炭素社会に取り組むまちづくりの実践→環境共生都市としてのイメージ向上

【箱崎地区に対して】
○緑・水辺と共生するまちの創造→生活環境の質の向上（緑豊かなまち ）
○既存樹木の保存・活用→九州大学の記憶の継承

5．土地利用の考え方


1．将来ビジョン策定の目的
2．優位性と課題
(1)位置
(2)福岡市の優位性･課題
(3)箱崎地区の優位性･課題
(4)上位計画等から見た役割･位置づけ
(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
3．まちづくりの方針
4．導入機能の考え方
検討した導入機能が箱崎キャンパス地区に立地する場合に周辺の状況等から立地が考えられるゾーンを整理
5．土地利用の考え方
6．都市基盤整備の考え方
7．空間整備の考え方
8．将来構想

土地利用の考え方

土地利用の考え方については、それぞれの「まちづくりの方針」に合致すると考えられる機能を箱崎キャンパス地区にあてはめた場合、周辺地域との関係等から立地を優先的に検討すべきと考えられるゾーンを整理したものであり、それ以外の機能を排除するものではありません。

1．「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン（まちづくりの方針１）

・交通利便性の高さを活かしながら、主に福岡市の持続的な成長に資する、新たな活力・交流を生み出す機能を配置するゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針1：成長・活力・交流に関わる機能

○新産業創造機能、業務商業機能　○広域行政機能　○ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ機能、ｽﾎﾟｰﾂ・交流機能、文化発信機能

【国道３号沿道・駅周辺地域】

《地域特性（現況）》

・2つの鉄道駅（地下鉄箱崎九大前・貝塚駅）に近接しており鉄道利便性が非常に高い地域

・九州の骨格幹線道路である国道3号の沿道であり、福岡都市高速道路貝塚ランプにも近接している自動車によるアクセス利便性が非常に高い地域

・国道3号沿道には商業・業務施設、飲食店等の他、貝塚団地などの共同住宅の立地も多く見られる地域

2．九州大学の「教育・研究」環境を継承し、活かすゾーン（まちづくりの方針２）

・「九州大学」が百年存在した地としてのブランドとともに、九州大学の近代建築物等を活かしながら、充実した教育・研究環境を継承するゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針2：教育・研究に関わる機能

○教育・人材育成機能　○研究・開発機能　○留学生支援機能

【箱崎キャンパス～箱崎宮地域】

《地域特性（現況）》

・箱崎キャンパス正門周辺を中心として、大正から昭和初期に建築された近代建築物が立地している地域

・箱崎キャンパス地区の南側は、筥崎宮、旧唐津街道沿いの町家等の歴史・文化的な地域資源が豊富に見られる地域

3．「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン（まちづくりの方針３）

・周辺住宅地への影響、周辺住宅地からの施設利用などを考慮しながら、主に安全・安心・快適で健やかに暮らす環境づくりを進めるゾーン。

《立地が考えられる主な機能等》

方針3：安全・安心・健やかに関わる機能

○医療・福祉機能、健康増進機能　○防災機能　○生活利便機能、居住機能　など

【ＪＲ鹿児島本線沿線地域】

《地域特性（現況）》

・箱崎キャンパス地区の東側は、UR団地や市営住宅団地、戸建住宅など住宅系の土地利用が多い地域

・近年、筥崎土地区画整理事業等により、集合住宅等の立地が進んでいる地域

・航空機騒音の影響を比較的受けにくい地域

【箱崎キャンパス地区全体】

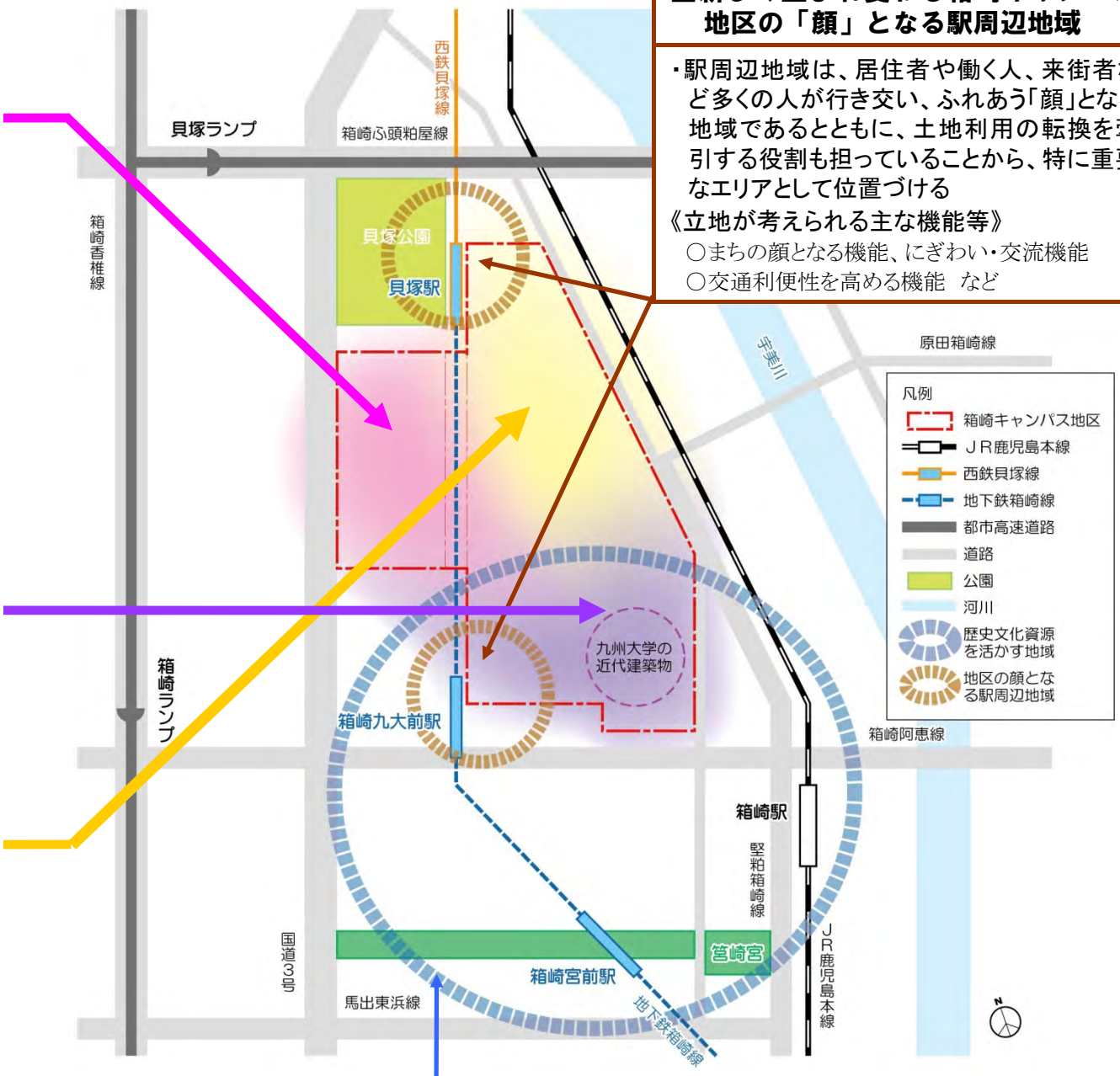
5．「環境」と共生し、再生「エネルギー」を積極的に活用する（まちづくりの方針５）

・地蔵松原と称された松林など、歴史的な由来を継承しながら、これからも豊かな緑を守り・育てる。
・九州大学の先進的な環境技術を活用しながら、まち全体で環境と共生し、持続可能なまちを形成する。

□新しく生まれ変わる箱崎キャンパス地区の「顔」となる駅周辺地域

・駅周辺地域は、居住者や働く人、来街者など多くの人が行き交い、ふれあう「顔」となる地域であるとともに、土地利用の転換を牽引する役割も担っていることから、特に重要なエリアとして位置づける

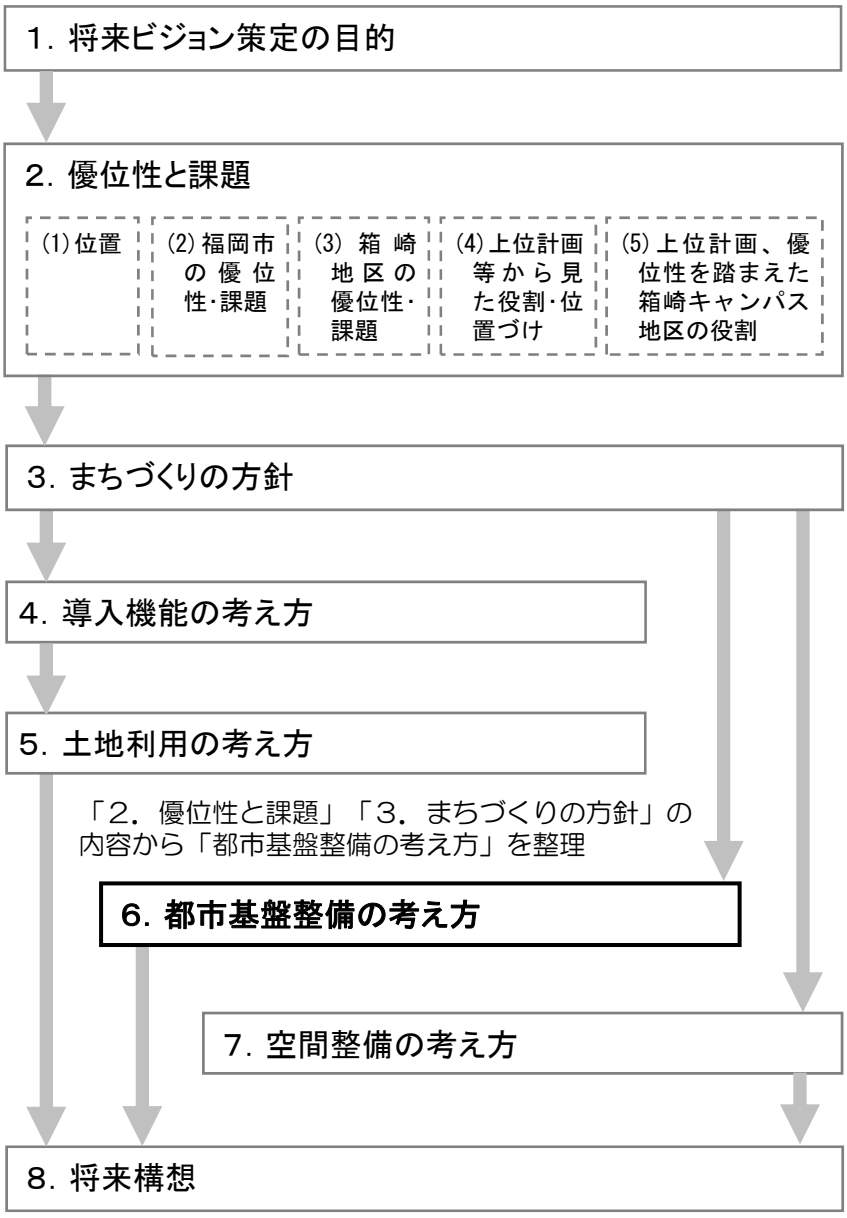
《立地が考えられる主な機能等》
○まちの顔となる機能、にぎわい・交流機能
○交通利便性を高める機能　など



4．箱崎のまちが持つ「歴史文化」資源を活かす（まちづくりの方針４）

・箱崎のまちが有する歴史文化資源を大切にし、貴重な地区資産として活かす。
・筥崎宮や旧唐津街道の街並み、九大近代建築物等の地区資源をつなぎ、周辺が調和・連携したまちを形成する。

６．都市基盤整備の考え方



都市基盤整備の考え方

1．まち全体の交通利便性を高める

【基本的な考え方】

・歩行者・自転車が快適・安全に利用できる緑豊かな交通ネットワークの充実による、箱崎キャンパス地区とその周辺を含むまち全体の交通利便性の向上

・3つの鉄道駅（地下鉄箱崎九大前・貝塚駅、JR箱崎駅）に囲まれた公共交通利便性の活用

（1）道路・歩行者空間整備

1)箱崎キャンパスによる東西市街地の分断を解消し、まち全体の利便性を向上させるための東西道路整備

2)各施設への徒歩・自動車などによるアクセス性を高めるための、必要に応じた道路整備

3)既存の緑を活かした、快適に歩ける・走れる、歩行者空間・自転車走行空間整備

（2）鉄道駅周辺空間づくり

1) 駅と隣接する場所における、人が憩い、交流できる空間づくりの検討（地下鉄箱崎九大前駅周辺）

2) バス・自家用車等の更なるアクセス利便性向上（地下鉄・西鉄貝塚駅周辺）

（3）バス利便性向上への取り組み

1) 道路整備に併せた更なるバス利便性の向上

2．既存環境・周辺魅力資源を活かす

【基本的な考え方】

・箱崎キャンパス内の既存通路や緑地空間などの既存環境の活用

・筥崎宮などの歴史文化資源、宇美川の水辺環境など、周辺に立地する魅力資源の活用

（1）既存環境の活用

1)一体的な空間づくりにむけた、箱崎キャンパス内の既存通路を活用した道路整備の検討

2)箱崎キャンパス内の既存緑地等を活かした公園・緑地整備

3)九州大学が所有する既存供給処理施設の活用も視野に入れた居住者・来街者等の生活・活動を支えるためのライフライン整備

（2）周辺施設等を結ぶルートづくり

1)地区の南側に位置している「筥崎宮」「町家」などの歴史的・文化的な地域資源と箱崎キャンパスを結ぶ、わかりやすく快適に歩ける緑豊かなルートづくりの検討

2)既存動線を活かしながら、箱崎キャンパス地区の東側に流れる「宇美川の水辺空間」と緑豊かな箱崎キャンパスを結びつつ、水と緑が豊かで快適に歩けるルートづくりの検討

3)箱崎キャンパスから「JR箱崎駅」までのアクセス向上の検討

3．生活の豊かさや安全性を向上させる

【基本的な考え方】

・緑豊かな公園の整備、災害に強いライフラインの整備などによる、箱崎キャンパスで新たに始まる生活・活動の豊かさや安全性の向上

・だれもが安全・安心に生活・活動するための、都市基盤整備におけるユニバーサルデザインの導入

（1）公園整備等

1)周辺地域からの利用にも配慮した、災害時にも活用できる公園整備、及び適正規模の公園整備

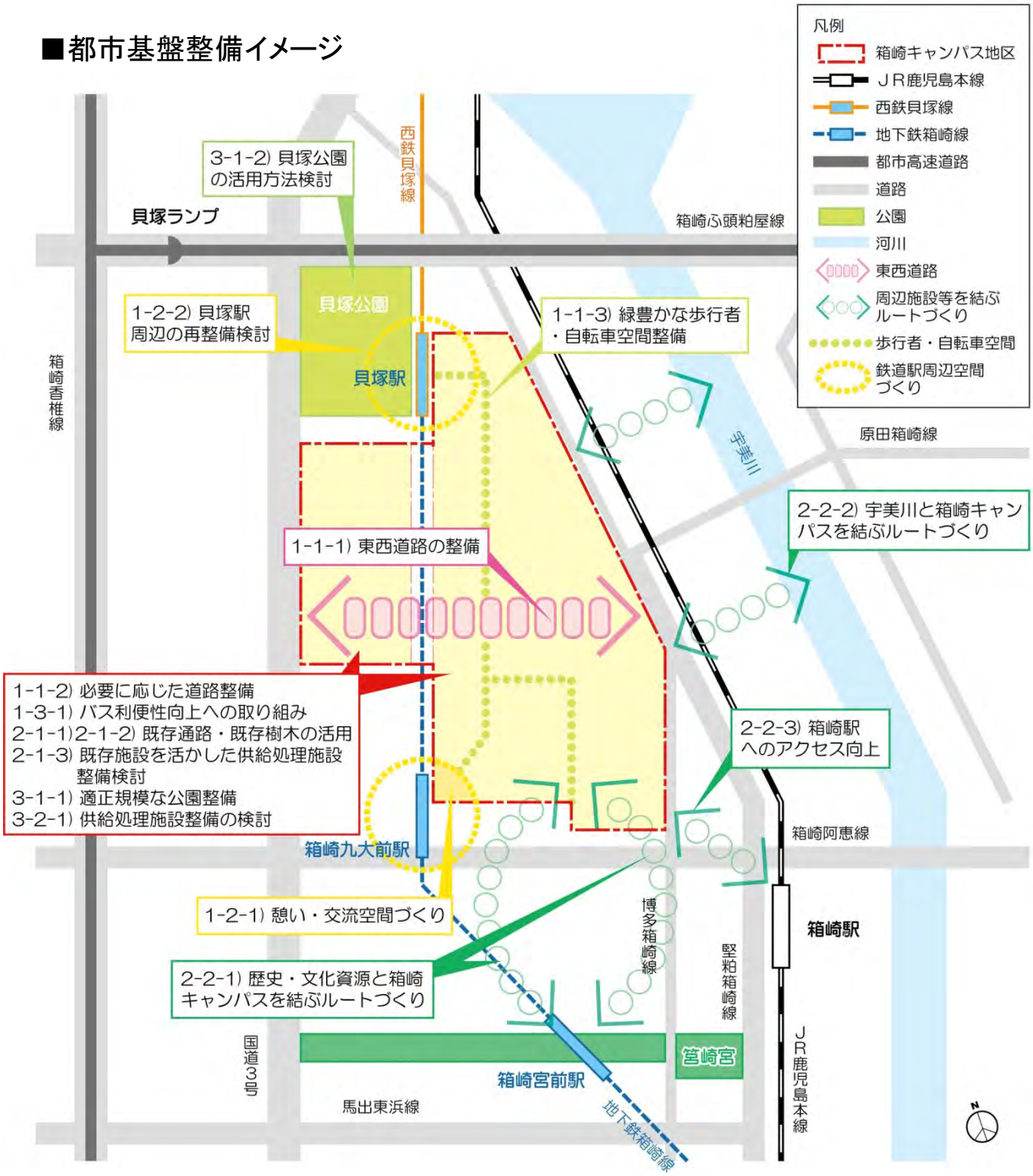
2) 箱崎キャンパスの公園・緑地整備にあわせた、「貝塚公園」に関する効果的な活用方法の検討

（2）供給処理施設整備等

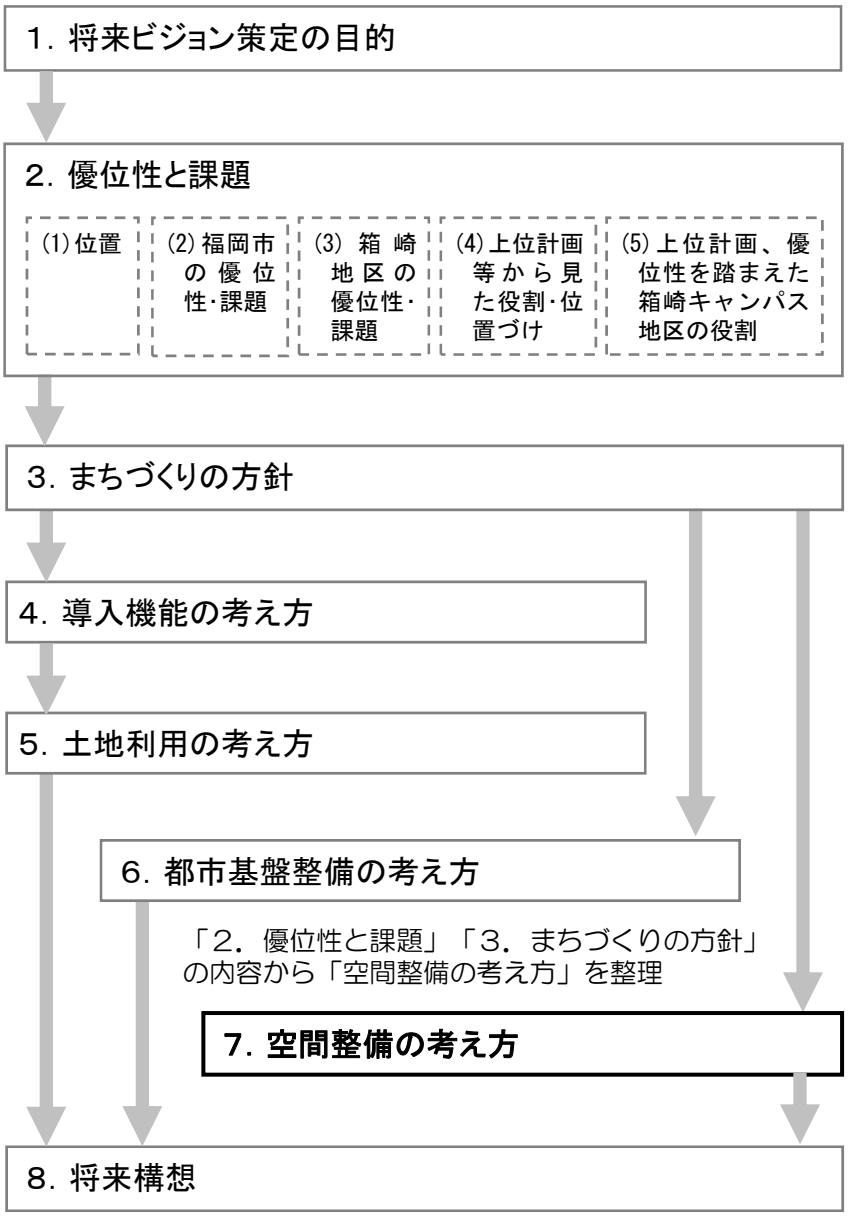
1)環境に配慮した中水道の活用、景観形成や防災に配慮した電線類の地中化等の検討

※道路・歩行者・自転車空間などの位置等は全てイメージ

■都市基盤整備イメージ



7．空間整備の考え方


1．将来ビジョン策定の目的
2．優位性と課題
(1)位置
(2)福岡市の優位性･課題
(3)箱崎地区の優位性･課題
(4)上位計画等から見た役割･位置づけ
(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
3．まちづくりの方針
4．導入機能の考え方
5．土地利用の考え方
6．都市基盤整備の考え方
「2．優位性と課題」「3．まちづくりの方針」の内容から「空間整備の考え方」を整理
7．空間整備の考え方
8．将来構想

空間整備の考え方

1．まち全体の一体感を創出する

【基本的な考え方】

・統一感のある街並み景観形成や人の出会いや交流を生み出すオープンスペースなどによる、まち全体の一体感の創出

（1）街並み景観の誘導

1)建築物の高さ、デザイン、広告物等の規制などに関するデザインのルールづくり、及びそれらに基づいた統一感のある街並み景観の形成

2)立花山・三日月山への視線を活かすなど周辺環境に配慮した景観形成

（2）一体的な街角空間の形成

1)道路が交差する街角空間における街角広場整備、統一されたデザイン、オブジェ等の配置など、まちの一体感を創出する仕掛けづくり

2)各街区に立地する施設の出入口を街角側に向けるなどの、人の交流を生み出す仕掛けづくり

（3）敷地内等における歩行者空間の確保

1)個々の敷地内における、歩行者が安全に歩ける歩行者空間の確保

2)公道・敷地内ともに歩行者動線の連続性を確保することでまちの回遊性を高め、一体感を創出する歩行者ネットワークの構築

3)歩行者空間における、ストリートファニチャーや憩い・休める場所の整備など歩いて楽しめる空間づくり

（4）オープンスペースの確保

1)各敷地内における、働く人や訪れる人が気軽に憩い・集えるコミュニティ形成の場、及び災害時の避難スペースになるオープンスペースの確保

2) 敷地境界線から建物壁面までの後退距離（セットバック）の指定による、主要な道路沿道における歩道状オープンスペースの確保、及び豊かな歩行者空間の確保

（5）敷地内における緑化推進

1)まち全体として緑豊かな空間づくりを進めるための、民有地内における積極的な緑化推進

（6）一体的機能の誘導

1)相互補完・連携する機能などの集積による、機能的なまちの一体感づくり

2．「大学100年の歴史と緑」を活かす

【基本的な考え方】

・大学100年の歴史と緑を引き継ぎ、その面影と記憶を継承するための、近代建築物や既存樹木などの新たなまちづくりにおける活用

（1）既存樹木の活用

1)既存樹木に関する、樹種、樹形、樹齢の状況等に配慮した、現地保存、公園・緑地・街路樹・民有地内への移植等の検討

2)できるだけ既存緑地等を活かした、新たな公園・緑地の整備

（2）歴史文化資源の活用

1)大学内に立地している近代建築物に関する、建物の価値・重要性等を考慮した、保存・活用の検討

（3）九州大学の面影・記憶の継承

1) かつてこの地に九州大学が存在したことを示し、九州大学の面影・記憶を継承する「証」の保存の検討

2)「証」を歩行者空間等に移設するなど、大学の面影を感じながら、記憶をつなぎ・たどることができる歩行者ネットワークづくり

3．「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

【基本的な考え方】

・「100年後の未来においても誇れるまちをめざす」ための、地元住民、福岡市、九州大学、事業者など多様な主体による、共通のルールに基づいた持続可能なまちづくりへの取り組み

・「誰もが思いやりを持ち、すべての人にやさしいまち」を実現するための、ユニバーサルデザインの導入

（1）まちづくりルールの策定

1)「1．まちの一体感の創出」「2．大学100年の歴史と緑」等のまちづくりを実現するための、地区計画の策定、ユニバーサルデザイン等を踏まえたデザインルールづくりなど、まちづくりに関するルールづくりの検討

2)地元住民、福岡市、九州大学、事業者など多様な主体が参加したまちづくりルールの策定

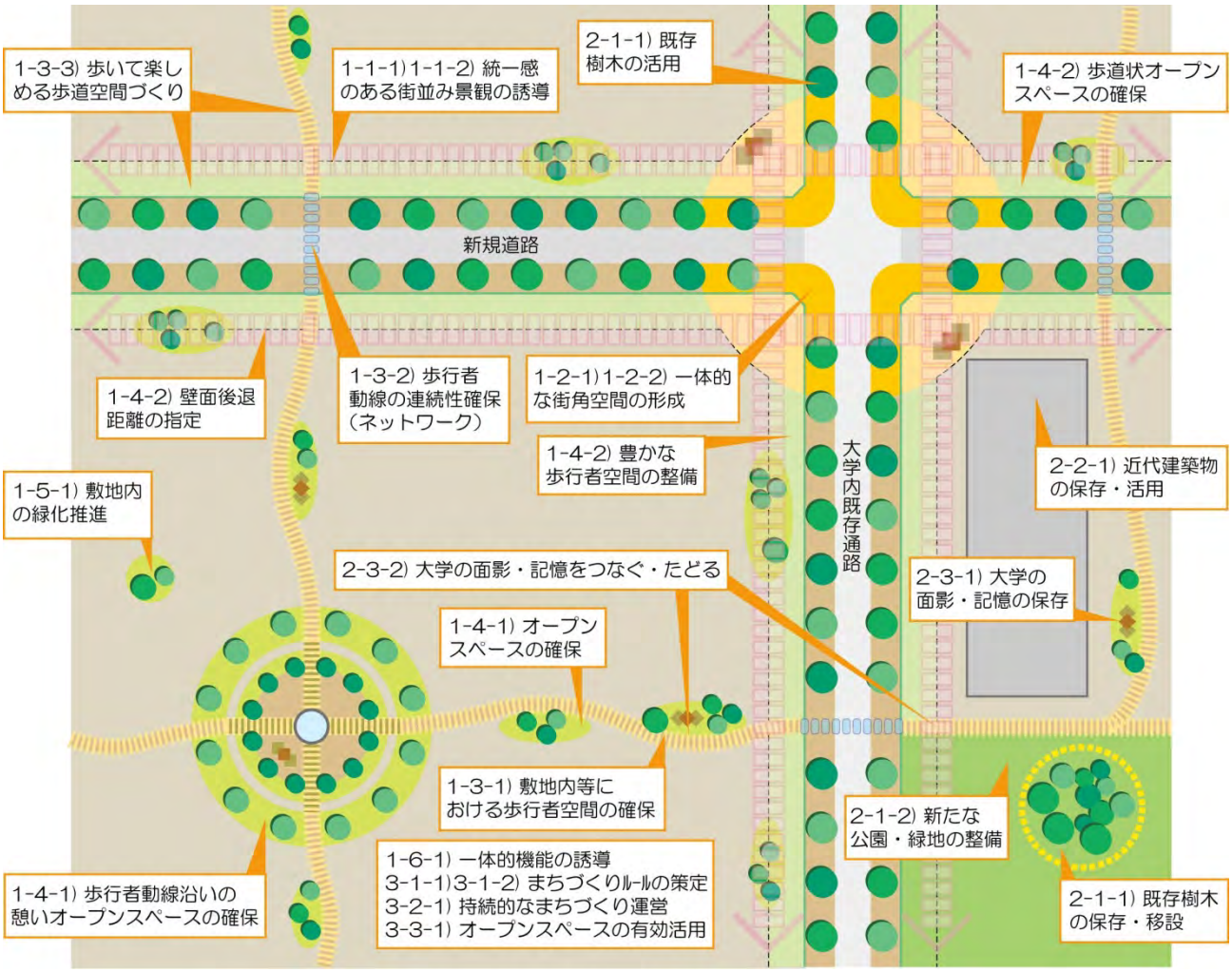
（2）持続的なまちづくり運営

1)共通のイメージに基づいたまちづくりの推進を担保するための、100年後の将来に向けて持続的にまちづくりの運営を行う組織設立などの仕組みづくりの検討

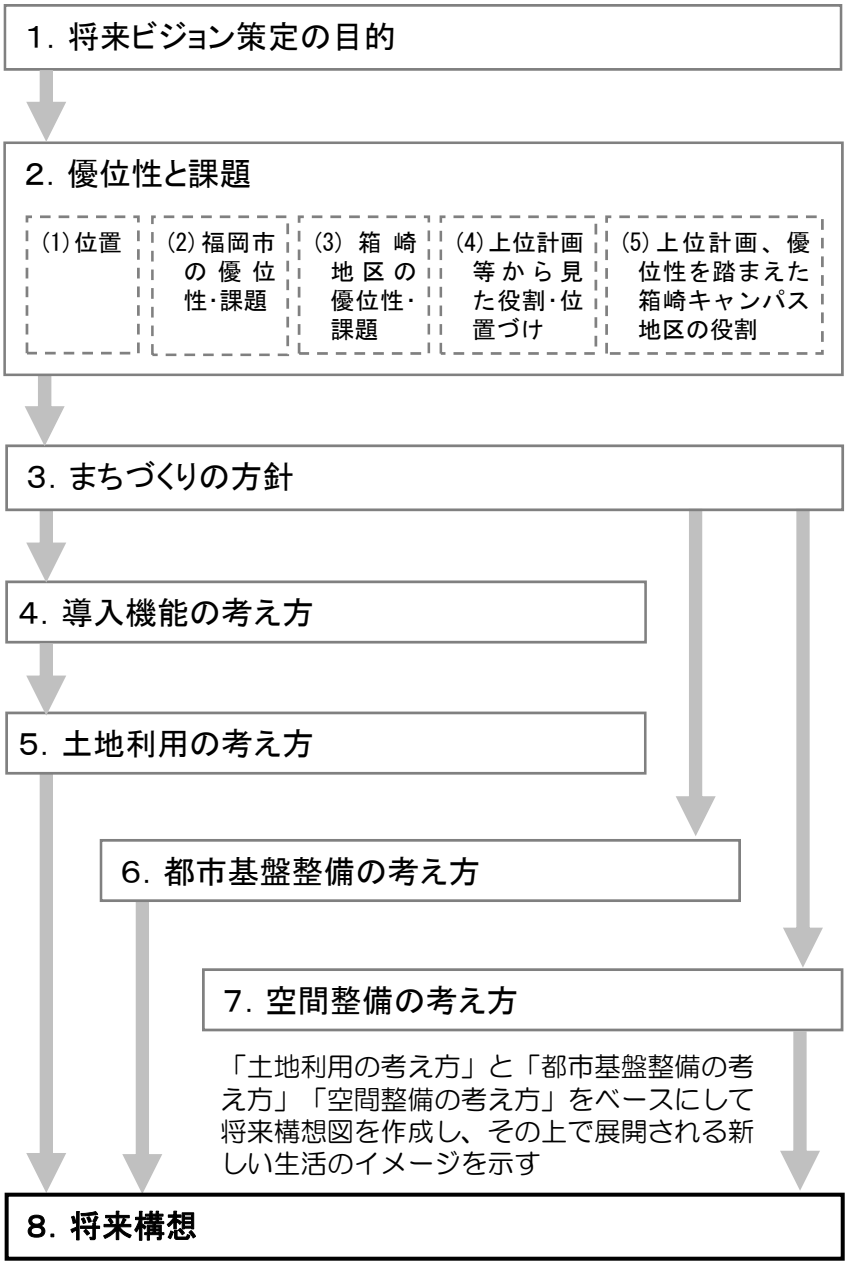
（3）オープンスペースの有効活用

1)まちかど広場やオープンスペースなどに関する、災害時やイベント開催時の活用など、地域住民や事業者による有効的な使い方の検討

■空間整備イメージ



8．将来構想


1．将来ビジョン策定の目的
2．優位性と課題
(1)位置
(2)福岡市の優位性･課題
(3) 箱崎地区の優位性･課題
(4)上位計画等から見た役割･位置づけ
(5)上位計画、優位性を踏まえた箱崎キャンパス地区の役割
3．まちづくりの方針
4．導入機能の考え方
5．土地利用の考え方
6．都市基盤整備の考え方
7．空間整備の考え方
「土地利用の考え方」と「都市基盤整備の考え方」「空間整備の考え方」をベースにして将来構想図を作成し、その上で展開される新しい生活のイメージを示す
8．将来構想

将来構想

■将来のまちづくりの考え方

1．多様な機能を持ちながら、まち全体の一体感を創出する

・周辺地域との調和に配慮しながら、「土地利用の考え方」に基づいて多様な機能の誘導を図る。
・多様な機能の誘導を図りながら、「都市基盤整備の考え方」及び「空間整備の考え方」に基づいたまちづくりを進めることによって、まち全体の一体感を創出する。

2．周辺地域と調和・連携・交流しながら、一体的に発展する

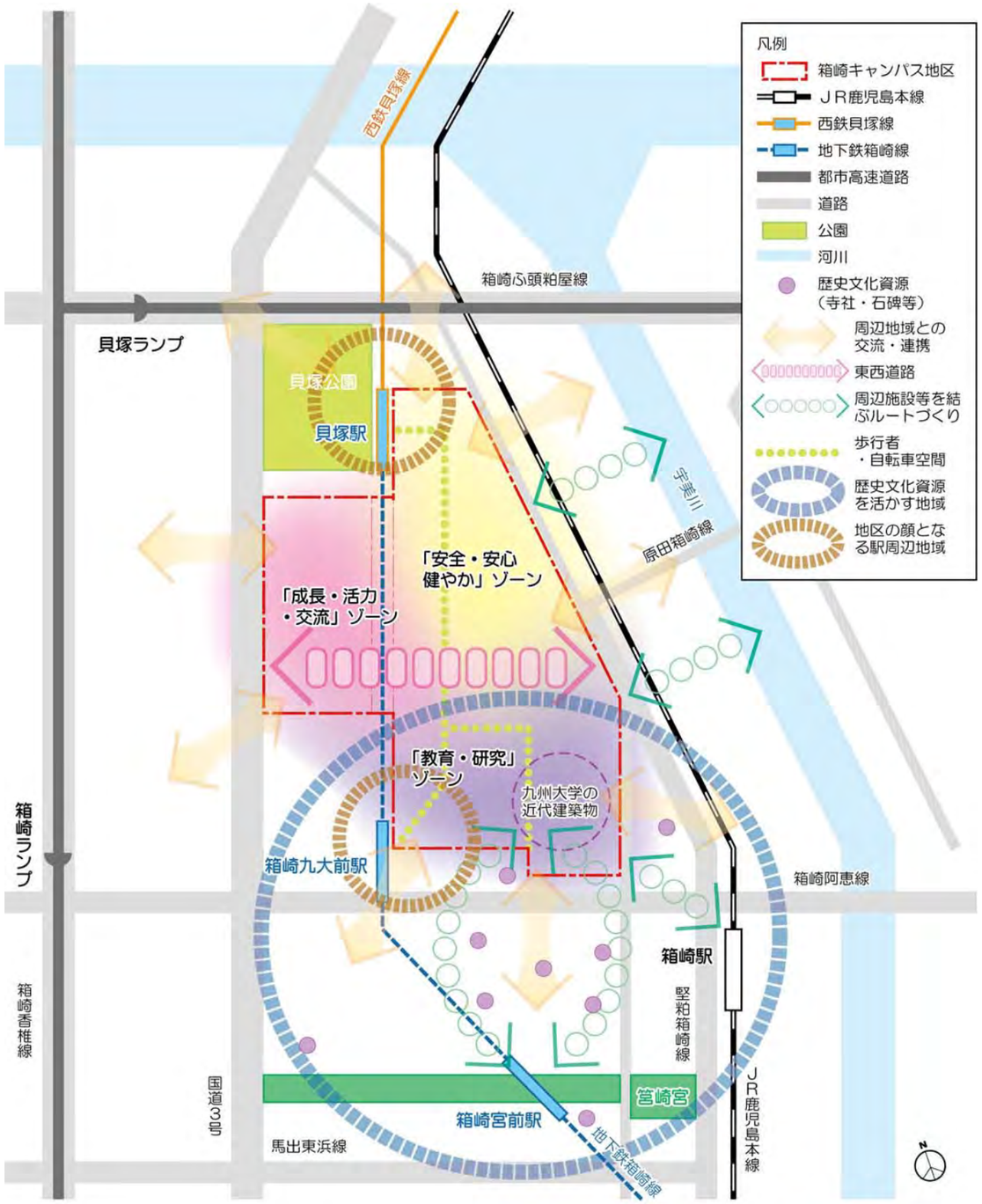
・周辺地域との調和に配慮しながら、まち全体の生活利便性の向上や魅力向上につながるような都市機能の誘導を進め、周辺地域との一体的な発展をめざす。
・周辺地域の交通利便性や防災性の向上につながるような道路・公園等の都市基盤づくりを進める。
・箱崎キャンパス地区内だけで活動が完結するのではなく、周辺の歴史文化資源と箱崎キャンパス地区をつなぎ、活かすなど、周辺地域の既存施設・魅力施設などと連携したまちづくりを進めるとともに、来街者を商店街や歴史文化資源に導く仕掛けづくりを行うなど、周辺地域も含めた広がりのある交流を促進させる。

3．持続的に発展し、100年後の未来に誇れるまちをつくる

・地域住民、福岡市、九州大学、事業者など、これからも多くの人が関わり、知恵を絞りながら、継続的に発展・進化しつづける、持続可能なまちづくりを進める。
・箱崎1000年、大学100年の歴史を大切にしながら、このまちの発展に貢献された先人達の思いを受け継ぎ、未来の若者達に繋いでいけるような、「100年後の未来に誇れるまち」をつくる。

■将来構想イメージ

※道路・歩行者・自転車空間などの位置等は全てイメージ



まちづくりの方針

1	福岡市の持続的な成長に資する 新たな活力・交流を生み出す
2	九州大学が存在した地として、 充実した教育・研究の環境を生みだし、人を育てる
3	高度医療施設の立地や高い利便性を生かして、 安全・安心・快適で健やかに暮らす

＜跡地利用にあたって踏まえるべき視点＞

4	千年のまち、大学百年の 歴史文化資源を大切にする
5	次世代の環境技術と豊かな緑を生かして 環境と共生し、持続可能なまちをつくる

土地利用の考え方

1	「成長・活力・交流」を生み出す機能配置を進めるゾーン
2	九州大学の「教育・研究」環境を継承し、活かすゾーン
3	「安全・安心・健やか」に暮らす環境づくりを進めるゾーン

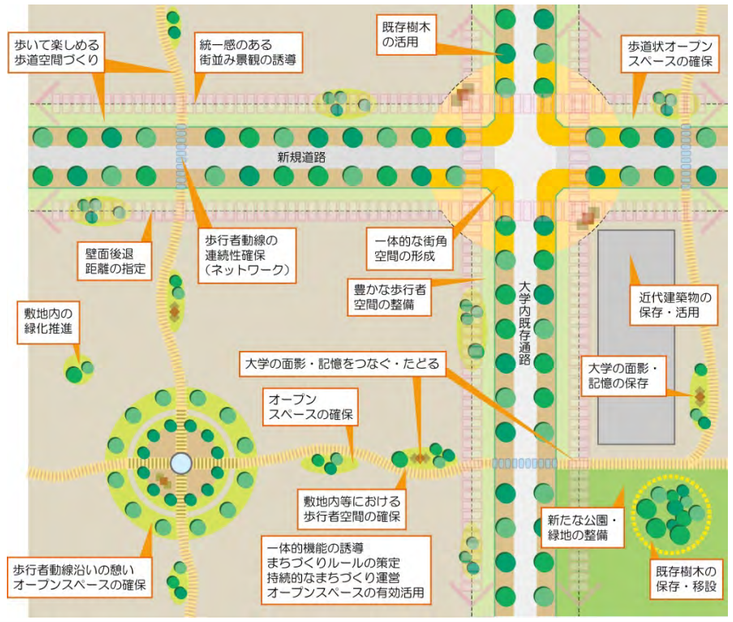
都市基盤整備の考え方

1	既存施設・周辺魅力資源を活かす
2	まち全体の交通利便性を高める
3	新しい生活・活動の豊かさや安全性を向上させる

空間整備の考え方

1	まち全体の一体感を創出する
2	「大学100年の歴史と緑」を活かす
3	「100年後の未来に誇れるまち」をめざす

■空間整備イメージ



９．跡地利用（処分）の考え方と今後の検討課題

跡地利用（処分）の考え方

■基本的な考え方

1．将来ビジョンを踏まえた跡地利用

＜跡地全体について、一体感のあるまちづくりの推進＞

・移転後の速やかな跡地利用のため、段階的な土地利用の転換を図る場合においても全体として一体感を創出すまちづくりを推進する。

＜周辺地域との調和・連携＞

・箱崎キャンパス周辺の市街地や歴史資源、交通施設等の立地状況などの地域特性を踏まえ、周辺地域と調和・連携し、一体的に発展できる跡地利用を誘導する。

2．九州大学の統合移転事業を踏まえた跡地処分

・「箱崎キャンパス跡地等の処分収入で伊都キャンパスの施設整備費を賄う」という九州大学の統合移転事業の原則を踏まえて跡地処分を進める。

・九州大学の統合移転スケジュールを踏まえて計画的な跡地処分を進めつつ、まちの活力低下を最小限にするため、各地区の移転後は速やかな跡地利用を促進する。

■ 跡地利用の進め方のイメージ

跡地利用に関する取り組み	導入機能に関する取り組み
九州大学箱崎キャンパス跡地利用将来ビジョン検討委員会の設置（H24．3）	（公共需要の随時検討） （民間企業への需要調査の実施） （需要喚起のためのPRの実施）
▼	
将来ビジョンを福岡市長・九州大学総長へ提言（H24年度中）	**公共需要・民間需要** 将来ビジョンに則り、公共需要・民間需要を広く求めながら、導入機能を継続検討
▼	
（仮）跡地利用計画の策定 ↔ 九大、市、地元など各関係者による検討体制	
▼	
（仮）跡地利用計画等に基づく跡地整備	
・まちづくりルールの策定 ・地区計画の策定等都市計画対応 ・基盤整備　・土地処分　・事業化	
▼	
順次、土地利用の開始	

今後の検討課題

将来ビジョンの実現のため、今後、具体的な（仮）跡地利用計画を策定していくにあたっては、これまでの将来ビジョン検討委員会の議論・検討内容を十分に踏まえた上で、以下の事項について留意した検討が必要である。

１．土地利用において公共・民間のベストミックスを図る

・公共、民間の需要を喚起し、それぞれの需要を把握した上で、具体的な（仮）跡地利用計画を検討する。

・公共による土地利用については、国、福岡県、福岡市とも厳しい財政状況にあることや公共の果たすべき役割等を踏まえながら、公共と民間がベストミックスされた土地利用を図る。

２．事業性・持続性のある導入機能の検討

・具体的な導入機能の検討にあたっては、その事業性・持続性を踏まえるとともに、周辺地域へ期待される効果を考慮に入れながら、導入機能の絞り込み・選定を実施する。

３．近代建築物等の既存施設の具体的な活用方法の検討

・近代建築物等の既存施設の具体的な活用方法については、費用対効果による検証を踏まえて検討する。

・特に、近代建築物の現状での保存・活用を図る場合は、安全性に留意するとともに、跡地全体のゾーニングにも影響を与えることから、実際の運営主体について、関係機関や民間事業者も含めて早急に検討する。

４．交通基盤の具体的な検討

・周辺の公共交通機関や道路等の状況を踏まえ、まち全体の更なる交通利便性の向上に向け、跡地内の新たな道路や駅周辺の環境整備等について具体的に検討する。

・特に、地下鉄貝塚駅及びその周辺の機能強化や利便性の向上について、関係機関と十分な協議・調整を図りながら検討を進める。

５．キャンパス内の既存供給処理施設等の活用における整理

・キャンパス内の既存インフラ（供給処理施設等）の活用にあたっては、老朽化等を踏まえた費用対効果による検証を実施する。

６．今後の社会情勢の変化に対応した跡地利用

・最終的な土地利用の転換まで長期にわたると想定されることから、今後の様々な社会情勢の変化に対応可能な跡地利用を推進する。

７．地域との連携

・将来ビジョンを踏まえたまちづくりの具体的な検討にあたっては、地域や関係機関等と十分に意見交換、情報共有を行いながら進める。

８．事業スキームの具体的な検討

・将来ビジョンや上記内容を踏まえ、関係機関と十分な協議のうえ、具体的な事業スキームを検討する。